



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
精神医療センター

令和4年度

精神医療センター業務年報

令和7年7月

I 概 況

Ⅱ 精神医療センター事務事業の状況

年報発刊にあたって

当センターでは、令和4年度も引き続き「精神科コロナ重点医療機関」として、新型コロナウイルス感染症に罹患した精神科患者さん約100名を受け入れました。パンデミック当初から患者さんたちとともに厳重な感染防止対策を継続し、令和2年5月からは治療にも取り組んできたため、職員はコロナ対応に習熟し、第7波、第8波の感染流行期にも冷静に対応することができました。また、県内の25の精神科病院から感染者を受け入れられたことで、県立精神科病院としての役割を果たせただけでなく、今後の病病連携をさらに促進するためのよい機会になったのではないかと感じております。

今年度6月から7月にかけて、県内の医療機関、行政機関に依頼して、当センターに対する要望を伺うアンケート調査を実施いたしました。多くのご回答をいただけたことに感謝いたします。要望としては、「受診依頼、入院依頼をできるだけ速やかに引き受けてほしい」、「地域が困った時に相談に乗ってほしい」、「難治性の統合失調症、依存症、強度行動障害など対応の難しい患者さんを診てほしい」という声が多く寄せられました。こうした地域のニーズに応えるために、急性期の患者さん、治療が困難な患者さん、専門医療の対象となる患者さんをよりスムーズに受け入れられる診療体制について検討するワーキングチームを立ち上げ、病棟機能の見直しを進め、長期入院患者さんの地域移行と外来患者さんの逆紹介の促進などを図ることにいたしました。急性期治療、専門治療により力を入れ、県の精神科医療の困難な部分をしっかりと担える病院になっていきたいと考えております。

令和6年4月から、医師の働き方改革の新制度が始まるため、県立病院機構では、令和3年度から5病院で検討会を行って準備を進めています。医師は長時間労働をして当たり前という認識を改め、他の労働者と同様に健康に働き続けるために、医療機関がきちんと医師の労務管理をし、時間外労働の縮減、勤務時間インターバルの確保などに努めることとなります。働き方改革によって各医師の勤務時間は明らかに減りますので、その中でこれまでと同様の診療を継続することはできません。医師の業務をスリム化するために、院内で職種間のタスクシェア、タスクシフトを進めるなどさまざまな工夫をしていきますが、それだけでなく、主治医制からチーム制に移行する、時間外の診療・面談予約は原則行わないなど、患者さんやご家族にもご理解いただかなければならない変更点も多々出てまいります。何卒ご理解、ご協力賜りたくよろしくお願い申し上げます。

精神医療センター 所長

目 次

I 概 況

1 基本理念	1
2 沿革	1
3 組織・機構	5
4 職員配置状況	6
5 施設	8
施設配置図	9
6 主な委員会・会議一覧	10
7 主な院内研修実績	11
8 主な活動実績	12

II 精神医療センター事務事業の状況

1 精神医療センター基本方針	15
2 業務実績	
(1) 各種指標	16
3 患者の状況	
(1) 外来患者の状況	17
(2) 入退院患者の状況	19
(3) 救急医療の状況	25
4 業務の状況	
(1) 看護	26
(2) 作業療法 (OT)	36
(3) デイ・ケア療法	38
(4) 検査業務	42
(5) 福祉医療相談科業務	47
(6) 地域医療連携業務	52
(7) 薬剤業務	55
(8) 医療教育	57
(9) 栄養管理業務	57
(10) 医療安全推進業務	60
(11) 保育業務	63

(注) 本年報の表は原則として令和5年3月31日をもって作成してあります。例外については、本文中に基準年月日を表示してあります。

1 基本理念

私たちは、こころの健康を支え、質の高い精神医療を提供します。

2 沿革

当センターは精神病院法に基づくわが国3番目の府県立精神病院として昭和4年3月から診療を開始した芹香院と、昭和38年4月、全国に先駆け、麻薬中毒患者専門医療施設として収容治療を開始し、その後、神経症、アルコール依存症、薬物中毒者の患者を対象に治療を行ってきたせりがや園を統合して、平成2年4月に神奈川県立精神医療センターとして改組した。(名称も芹香病院、せりがや病院に改称。)

平成26年12月両院を統合し、323床(許可病床)を有する新しい「神奈川県立精神医療センター」として開院した。

開設以来の主たる変遷は次のとおりである。

【芹香院】

昭和3年11月	本館及び病棟5棟 附属建物を含め延べ…3,606㎡の施設完成
4年3月	診療開始(150床)
35年7月	第1、第2病棟完成(作業療法棟…2,207.05㎡)
39年4月	地方公営企業法(企業会計方式)の一部適用
46年8月	院内保育施設新築
11月	C病棟、管理診療棟、サービス棟新築
48年1月	A病棟、B病棟、社会療法棟、喫茶売店棟、車庫棟新築
3月	温室及び看護婦宿舎新築
6月	作業療法棟改築
7月	事務局に医事課を新設
8月	事務局に栄養課を新設、医療局を部長制とし、作業療法科を新設、看護部に看護教育係を新設
50年7月	せりがや地区第一医療職員公舎完成
54年3月	A、B、C各病棟の2、3階に消防用スプリンクラー設備設置
10月	A3病棟を開棟
55年8月	事務局が総務局に、管理課が総務課に改称、総務局次長(総務課長兼務)新設
56年7月	保育施設改修
10月	芹香院作業療法用農場(27アール)整備工事完成
57年1月	身体障害者用便所、管理診療棟1箇所、A病棟1箇所完成
58年11月	緊急医療対策用保護室改修
60年9月	デイ・ケア施設改修
62年4月	医療局にデイ・ケア科を新設
	夜間、休日の緊急医療開始
12月	外来受付室、待合室改修
平成元年3月	保護室(6室)、静養室(16室)改修
2年1月	保護室(8室)改修

【せりがや園】

昭和38年 1月	本館新設（サーモコン2階建）
3月	厨房棟新築（コンクリート鉄骨平屋建）
4月	診療開始（70床）
39年 4月	地方公営企業法（企業会計方式）の一部適用
43年 7月	本館増築工事等 病棟、管理部門の改修
52年 4月	病床数（64床）変更

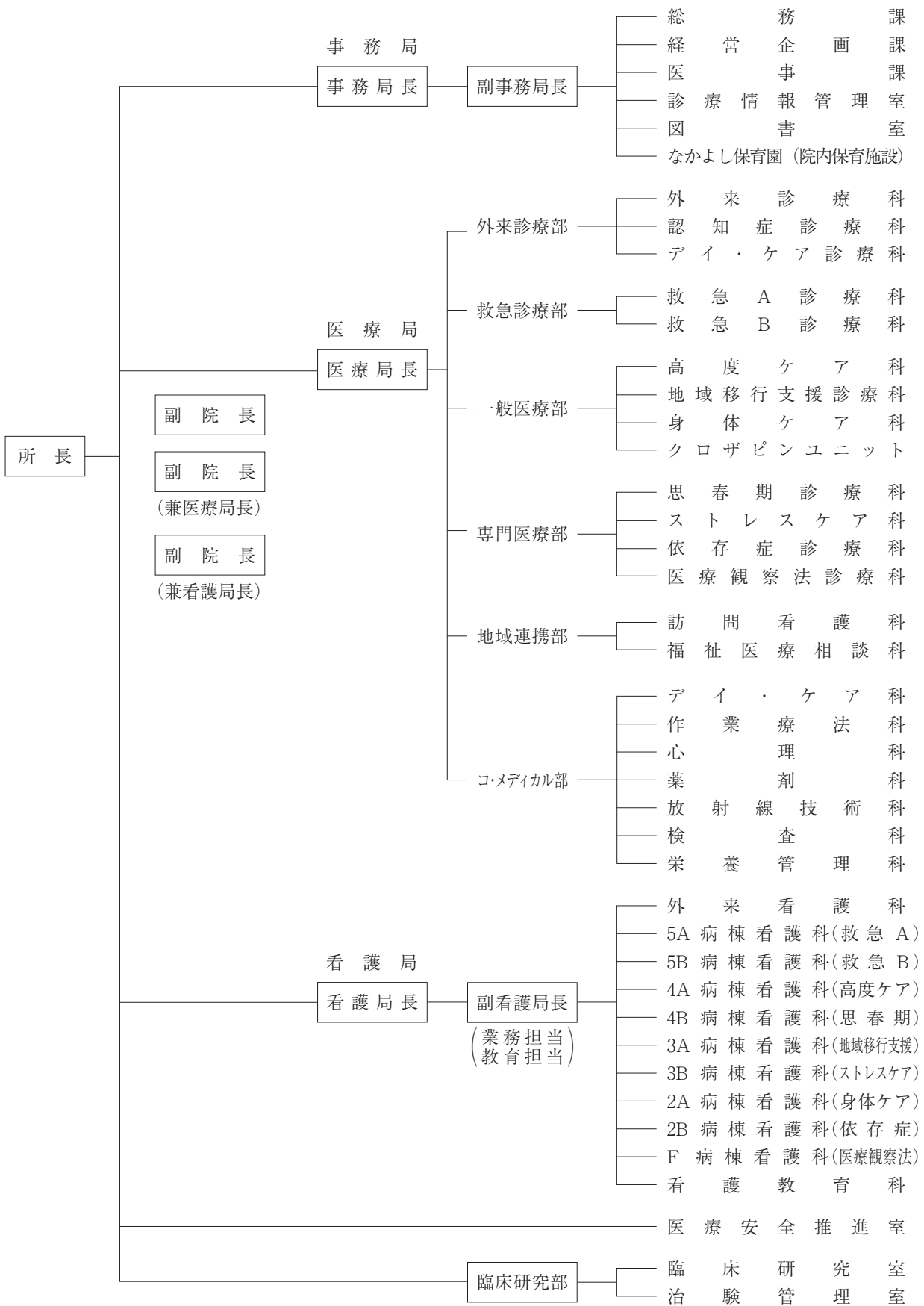
【精神医療センター】

平成 2年 4月	芹香院とせりがや園を、精神医療センターに組織改正、センター所長職の設置、芹香院を芹香病院に、せりがや園をせりがや病院に改称、精神医療センター総務局に総務課、経理課、医事課及び栄養課設置 せりがや病院の医療局に心理・相談科、看護部に外来看護係、看護教育係を新設
9月	せりがや病院新築（80床）
3年 4月	芹香病院A1…病棟を老人性痴呆専門治療病棟（44床）に改修 芹香病院B3…病棟の一部を改築（結核合併症病棟16床、精神科病棟31床）
4年 4月	芹香病院B2…病棟保護室（4室）改修
5年 2月	せりがや病院 基準看護結核・精神特2類承認
3月	芹香病院 基準看護結核・精神特2類承認
6年 3月	看護婦共同宿舎、看護師宿舎、職員公舎一戸解体 芹香病院C1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置
10月	芹香病院、せりがや病院新看護体系……3：1……承認
7年 3月	芹香病院 B1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置 C棟外壁塗装、屋上防水塗装工事完成
7年 5月	せりがや病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
8年 3月	芹香病院A1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置 芹香病院A2…病棟に感染症隔離室（2室）設置 芹香病院A3…病棟に救急用保護室（4室）、静養室（3室）設置
8年 4月	芹香病院病床数（497床）変更 芹香病院 精神科救急医療開始 選択メニュー給食の実施
10年12月	職員公舎3戸解体
12年 7月	芹香病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
12月	第1医療職員公舎解体
14年 4月	芹香病院 精神科救急医療 24時間体制開始（8床）
15年 4月	芹香病院 精神科 救急病棟開設（B-1病棟 26床） 芹香病院 病床数（445床）変更
15年 9月	芹香病院 応急入院指定病院（1床）
15年10月	芹香病院 精神科急性期治療病棟（B1）入院科1適用承認
15年10月	芹香病院 紹介患者加算5実施
16年 4月	芹香病院 精神科救急入院科（B1…病棟26床）適用承認

平成16年 4月	芹香病院 精神科救急入院施設管理加算（A1…病棟を除く）適用承認 芹香病院 医療保護入院等診療科適用承認 せりがや病院 医療保護入院等診療科適用承認 芹香病院 褥瘡患者管理加算適用承認
6月	芹香病院 療養環境加算（A1・B2…病棟）適用承認
9月	芹香病院 夜間勤務等看護加算（A1…病棟）
17年 4月	地方公営企業法全部適用 精神医療センターの組織再編成 看護部を看護局と改称、経理課及び医事課を医事経営課に統合、 栄養課を栄養管理科に改称、各看護係を看護科と改称、各病院内に医療安全推進室を設置、芹香病 院診療科内の医療相談室を地域医療相談室と改称
12月	芹香病院 日本医療機能評価機構認定病院となる せりがや病院 日本医療機能評価機構認定病院となる
18年 1月	芹香病院 診療録管理体制加算 せりがや病院 診療録管理体制加算
4月	芹香病院 15対1 精神病棟入院基本料（A1…病棟及びB1…病棟を除く） 芹香病院 老人性認知症疾患治療病棟入院料1（A1…病棟） 芹香病院 医療安全対策加算 芹香病院 臨床研修病院入院診療加算 芹香病院 栄養管理実施加算 せりがや病院 15対1 精神病棟入院基本料 せりがや病院 栄養管理実施加算
8月	芹香病院 精神科ショート・ケア「大規模なもの」
9月	芹香病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定 せりがや病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定
12月	芹香病院 特定病院認定
19年 5月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2 適用承認
8月	せりがや病院 精神科作業療法適用承認
20年 3月	芹香病院 老人性認知症専門病棟（A1…病棟）閉床 芹香病院 生活訓練・短期静養病棟（C1…病棟）閉床
4月	芹香病院 ストレスケア病棟（A2…病棟）開床 芹香病院 精神科地域移行実施加算
8月	芹香病院 看護補助加算1
21年 2月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2（A2・B2…病棟）
4月	芹香病院 精神科救急入院料2（B1・B2…病棟） 芹香病院 通院対象者社会復帰連携体制強化加算
6月	せりがや病院 褥瘡患者管理加算
9月	芹香病院 病床数（308床）変更
22年 2月	芹香病院 医療観察法指定入院医療機関の指定（2床） 芹香病院 入院対象者入院医学管理料
4月	地方独立行政法人へ移行
5月	芹香病院 救急医療管理加算 せりがや病院 重度アルコール依存症管理加算
6月	芹香病院 精神科救急入院料1（B1、B2…病棟）

平成22年 7月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料1 (A2…病棟)
12月	芹香病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 13対1 精神科病棟入院基本料
23年 1月	芹香病院 作業療法棟及び社会療法棟の撤去
9月	芹香病院 医療観察法病棟の建設工事を開始
24年 2月	芹香病院精神科一般病棟 (C3…病棟) 休床
4月	芹香病院精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 芹香病院治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
11月	医療観察法病棟 (F病棟) の開棟 (33床) 新精神医療センター本館の建設工事を開始
26年 3月	せりがや病院 1階病棟 休床
4月	せりがや病院精神保健福祉士配置加算 芹香病院精神科急性期医師配置加算 (A2…病棟)
12月	精神医療センター本館開設、芹香病院・せりがや病院統合 (323床) 思春期病棟開設 既存棟除却工事を開始 コンピューター断層撮影 (16列以上64列未満のマルチスライス型の機器による場合) ニコチン依存症管理料
27年 1月	児童・思春期精神科入院医療管理料 (4B病棟) 強度行動障害入院医療管理加算 (4B病棟)
11月	既存棟除却工事完了
28年 9月	新院内保育施設建設工事を開始
29年 4月	新院内保育施設建設工事完了
5月	院内保育施設一般児童の受入開始
11月	「もの忘れ外来」を開設
30年 4月	MRIの稼働開始 看護職員夜間配置加算 (5A、5B病棟) 児童思春期精神科専門管理加算
31年 2月	後発医薬品使用体制加算4
令和元年 5月	認知療法・認知行動療法
7月	経頭蓋治療用磁気刺激装置による治療 (6月より保険収載)
8月	後発医薬品使用体制加算3
10月	患者サポート体制充実加算
2年 2月	一般名処方加算1及び2 (処方箋科)
4月	神奈川県災害拠点精神科病院の指定 経頭蓋磁気刺激療法 精神科急性期医師配置加算 2のロ (診療報酬改定により算定継続するための届出) 救急管理加算 (診療報酬改定により算定継続するための届出)
5月	神奈川県精神科コロナ重点医療機関に認定
6月	予約診療の開始 (認知行動療法に伴う心理面接)
10月	後発医薬品使用体制加算2
3年 4月	連携サポートセンターを新設

3 組織・機構 (令和4年4月1日現在)



4 職員配置状況 (令和4年4月1日現在)

所属	職	事務職員	技術職員	技能職員	計	非常勤職員	再雇用職員	契約職員	任期付職員
所 長			1		1				
副 院 長			3		3				
事 務 局 長		1			1				
副 事 務 局 長		1			1				
総 務 課		4 (1)			4 (1)	8		1	
経 営 企 画 課		4			4	1		2	
医 事 課		5			5	2			
小 計		15 (1)	4		19 (1)	11	0	3	0
医 療 局 長			(1)		(1)				
診 療 科			18		18	25		3	6
デ イ ・ ケ ア 科		3	4		7	1			
作 業 療 法 科			8		8				
心 理 科		6			6				
薬 剤 科			6		6	1			
放 射 線 技 術 科			1		1	1			
検 査 科					0	3			
栄 養 管 理 科			3	4	7	17	4	9	
連 携 サ ポ ー ト セ ン タ ー 長			1		1				
地 域 連 携 ・ 訪 問 支 援 科			5		5		2		
福 祉 医 療 相 談 科		12			12	3		1	
看 護 局 長			(1)		(1)				
副 看 護 局 長			2		2				
看 護 局			225	2	227	8	14	9	
医 療 安 全 推 進 室			1 (1)		1 (1)				
臨 床 研 究 室		1	(1)		1 (1)				
小 計		22	274 (4)	6	302 (4)	59	20	22	6
計		37 (1)	278 (4)	6	321 (5)	70	20	25	6

(注) () は兼務

職種別内訳（令和4年4月1日現在）

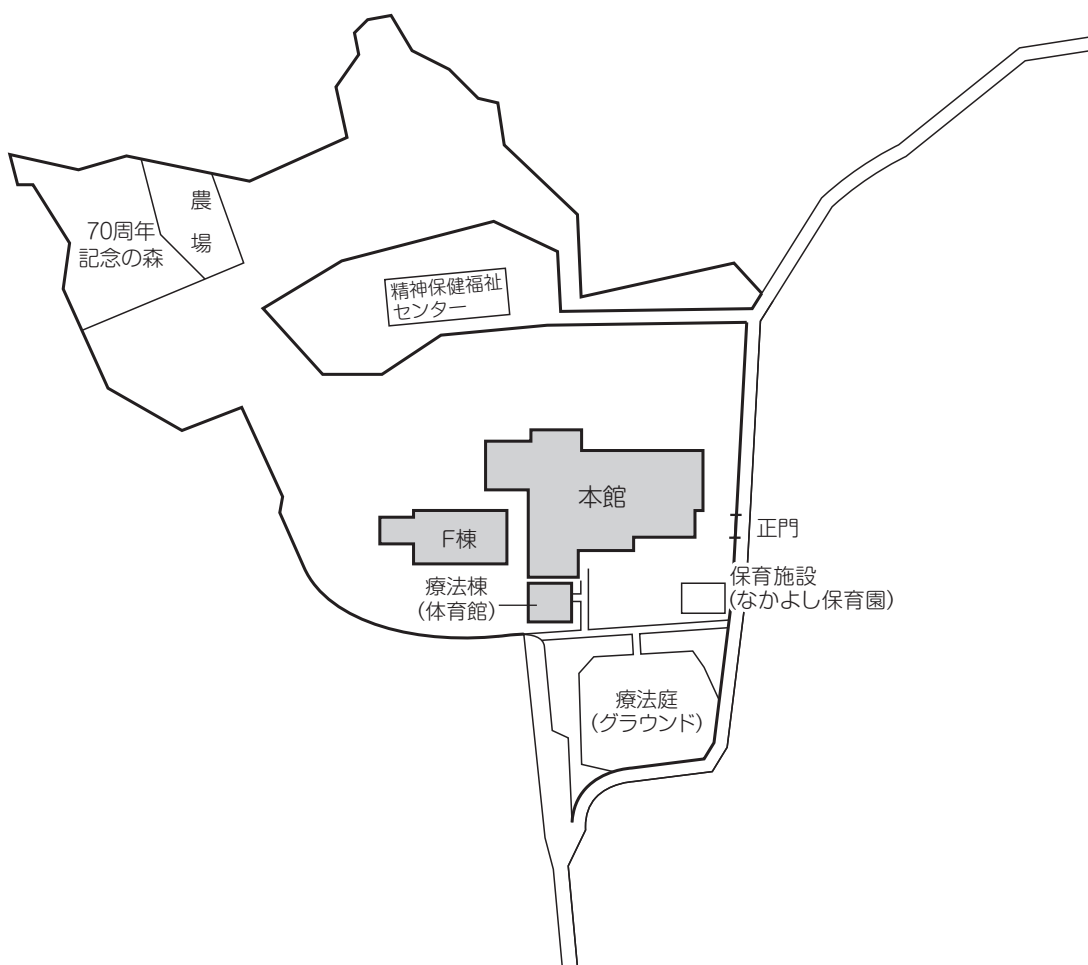
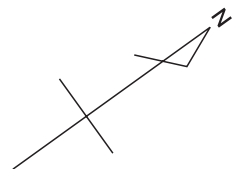
職 種		所 属		事 務 局	医 療 局	連 サ ポ	看 護 局	計
		所 長						
一 般 事 務 職				15				15
栄 養 士					3			3
調 理 職					4			4
医 師		1			20	1		22
福 祉 職	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー				1	12		13
	臨 床 心 理 士				9			9
作 業 療 法 士					11			11
薬 剤 師					6			6
診 療 放 射 線 技 師					1			1
看 護 職				1	1	5	228	235
病 棟 技 能 職							2	2
総 数		1		16	56	18	230	321

5 施 設

【神奈川県立精神医療センター】 (令和4年4月1日現在)

土 地		69,757.63 m ²
建 物		(延べ面積)
本 館	鉄筋コンクリート造 地上5階建	18,462.53 m ²
療 法 棟	鉄骨造 平家建	543.86 m ²
営 繕 棟	軽量プレハブ造 平家建	59.81 m ²
医 療 観 察 等 病 棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建	2,998.75 m ²
保 育 施 設	鉄骨造 平家建	419.74 m ²
防 災 倉 庫	鉄筋コンクリート造 平家建	43.21 m ²
デ イ ケ ア 倉 庫	鉄骨造鋼板ぶき 平家建	10.00 m ²
計		22,490.85 m ²

施設配置図



6 主な委員会・会議一覧 (令和4年4月1日現在)

委員会・会議	目 的	所管課(科)	開 催 日
管 理 者 会 議	センターの運営基本方針、事業計画及び予算等の重要事項の協議決定	総 務 課	月1回(第1・第4月)
経 営 調 整 会 議	センターの運営基本方針、事業計画、予算及び経営改善の推進等の重要事項の協議決定	総 務 課	月1回(第1火)
診 療 情 報 部 会	センターのカルテ、看護記録等の診療情報の管理に関する事項の検討	医 事 課	月1回(第2火)
倫 理 委 員 会	センターで行う医療等に関し、倫理上の配慮が求められる事項についての検討	総 務 課	随時
機 種 等 選 定 会 議	備品購入又は委託等に係る機種選定及び入札参加者等の適正な選定	経 営 企 画 課	随時
工 事 発 注 方 法 審 査 会 議	工事の発注方法等の審査の実施	経 営 企 画 課	随時
教 育 研 修 会 議	医療人材の教育・研修及び評価並びに、成果発表の企画・運営	看 護 局	隔月
感 染 防 止 対 策 会 議	センターの院内感染防止及び衛生管理対策等の検討	医 療 安 全 推 進 室	月1回(第1火)
医 療 安 全 管 理 会 議	センターの医療事故の防止体制の整備・確率及び防止対策の企画・立案等	医 療 安 全 推 進 室	月1回(第1火)
栄 養 ・ 給 食 会 議	センターの栄養管理・食事サービス業務の効率的な運営と向上	栄 養 管 理 科	年4回
薬 事 会 議	センターの医薬品の適正な管理及び効率的な運用	薬 剤 科	年4回
衛 生 委 員 会	センターの職員の安全と健康の確保及び快適な作業環境の形成	総 務 課	月1回(第2月)
看 護 科 長 会 議	センターの看護管理に関する連絡調整及び看護組織の運営改善等の協議、看護職員の資質向上の検討	看 護 局	月3回(第1・第2・第4水)

7 主な院内研修実績

研修	担当者	開催日	講師	テーマ	参加人数	実施要件等
新採用・転入職員研修	総務課・看護局	4月1日 ～8日 (内6日間)	総務課・看護局	・当センターの概要を理解し、 組織・環境・業務への 適応を図る ・専門職業人としての 自覚を促す	36	新人看護職員職 場内研修事業費 補助事業対象
安全管理研修① 感染防止研修①	医療安全会議 感染防止対策会議	6月15日 ～8月5日	医療安全推進室	感染対策研修 医療安全研修	447	医療法第25条 第一項に基づく 立入り検査事項 年2回程度実施
情報セキュリティ研修 (科長職以上対象)	教育研修会議	9月13日	外部講師 神奈川県警察	サイバー攻撃の情勢と対策	26	医療法第25条 第一項に基づく 立入り検査事項
情報セキュリティ研修 (全職員対象)	総務課	12月2日 WEB	機構本部	病院における 情報セキュリティ対策	332	医療法第25条 第一項に基づく 立入り検査事項
パーソナリティ障害	教育研修会議	9月22日	西ヶ原病院 林直樹先生	パーソナリティー症と 精神科臨床	64	医療の質向上
接遇研修	教育研修会議	10～11月	看護局	接遇マナー基本「あいさつ」で かわるおもてなしの心	345	医療法第25条 第一項に基づく 立入り検査事項
精神医療センター研究発表・ 業務改善報告会 兼職員表彰推薦演題選考会	教育研修会議	12月12日 発表会 12月28日 表彰式	教育研修会議	口述発表：12題 ポスター発表：11題	60	県立病院機構職 員表彰への推薦 者の決定
医療安全フォーラム ・感染防止研修② ・医療安全研修② ・医薬品安全管理研修 ・行動制限評価検討会議 ・医療ガス ・褥瘡予防対策 ・放射線曝露対策	医療安全推進部会 感染対策会議 褥瘡予防対策会議 放射線科 教育研修会議 他	1月17日 ～2月17日	医療安全推進室	感染対策研修 医療安全研修 医薬品安全管理研修 行動制限評価検討会議研修 医療用ガス安全管理研修 栄養管理科 褥瘡対策会議 放射線技術科	456	医療法第25条 第一項に基づく 立入り検査事項 年2回程度実施
行動制限最小化	行動制限評価検討会議	11～12月	看護行動制限 会議	E-ランニング 「事例を实践に活かす行動制限 最小化」	248	医療保護入院等 診療料施設基準 の届け出研修会 の年2回程度実 施
衛生委員会研修	衛生委員会	2月7日	外部講師 藤田 麻里	「腰痛エクササイズ」	21	労働安全衛生法
委託職員研修 栄養管理科	医療安全推進室	2月9日 2回開催	医療安全管理者 陸川	飛沫感染対策 ここを抑えれば大丈夫	25	

8 主な活動実績

○講師派遣実績

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
田口 寿子	医療観察法による医療について	瀬戸内刑事法研究会
田口 寿子	自閉スペクトラム症の精神鑑定	かながわ地域精神科医会
田口 寿子	医療観察法における医療と社会復帰	第100回刑法学会ワークショップ
田口 寿子	スティグマをこえる一対象者の社会復帰の可能性を究める一	第17回医療観察法関連職種研修会シンポジウム
田口 寿子	コロナ禍における精神医療センターの取り組み 一今後の地域連携・地域移行に向けて一	住友ファーマ株式会社
田口 寿子	気分障害の精神鑑定	第14回日本司法精神医学会刑事精神鑑定ワークショップ
田口 寿子	コロナ禍における精神医療センターの取り組み	藤沢市精神科医会
小林 桜児	依存症概論	神奈川県立精神医療センター令和4年度依存症セミナー、R4年7月
小林 桜児	アディクションの理解	令和4年度日本精神科看護協会神奈川支部研修会、ウィリング横浜、2022年7月
小林 桜児	なぜやめられなくなるのか～依存症の理解と対応について学ぶ～	京都府総合教育センター令和4年度研修講座「養護教諭講座」新規採用者研修「養護教諭4」講座、京都府立京都学・歴史館、2022年8月
小林 桜児	薬物依存症とは～コロナ禍での変化～	文部科学省委託令和4年度依存症予防教育推進事業依存症予防秋田教室、秋田市文化会館、2022年8月
小林 桜児	物質使用および嗜癖障害	横浜市立大学医学部令和4年度精神医学講義、オンライン授業、2022年9月
小林 桜児	アルコール・薬物依存症にならないために～リスクと心のケア～	相模原市メンタルヘルス市民講座、YouTube公開動画、2022年10月～23年3月
小林 桜児	信頼障害としてのアディクション ～いかに動機付けの浅い患者を治療に結びつけるか～	令和4年度名古屋市アルコール依存症支援者研修会、オンライン講義、2022年10月
小林 桜児	依存症とは～依存問題と回復について～	東京都立精神保健福祉センター令和4年度依存症家族教室、都立精神保健福祉センター、2022年10月
小林 桜児	薬物依存とトラウマ	令和4年度大阪府薬物依存症地域支援体制推進部会、オンライン講演、2022年10月
小林 桜児	薬物依存症とは～コロナ禍での変化～	文部科学省委託令和4年度依存症予防教育推進事業依存症予防静岡教室、静岡県総合研修所もくせい会館、2022年10月
小林 桜児	生きづらさとアディクション～信頼障害からみた依存症～	福島県精神保健福祉センターアディクションフォーラム、オンライン講演、2022年10月
小林 桜児	物質関連障害の回復支援と薬物療法の役割	第22回臨床精神神経薬理学セミナー、都市センターホテル、2022年11月
小林 桜児	処方薬・市販薬依存について ～どうして？乱用がやめられないメカニズム～	広島市精神保健福祉センター研修会、オンライン講義、2022年11月
小林 桜児	性非行の背景としての愛着障害	横浜家庭裁判所小田原支部研修会、横浜家庭裁判所小田原支部、2022年11月
小林 桜児	依存症に潜む生きづらさ～10年先を見据えた支援を考える	令和4年度関東甲信越ブロック精神保健福祉センター連絡協議会、神奈川県立精神保健福祉センター、2022年12月
小林 桜児	薬物依存症とは～コロナ禍での変化～	文部科学省委託令和4年度依存症予防教育推進事業依存症予防和歌山教室、和歌山県民文化会館、2022年12月

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
小林 桜児	愛着障害と依存症～依存症治療の中で私たちができること～	神戸ダルクヴィレッジ依存症セミナー、あすてっぶKOBESH神戸市男女共同参画センター、2023年1月
小林 桜児	依存症問題と小児期逆境体験について	令和4年度鳥取県依存症支援拠点機関研修、オンライン講義、2023年1月
小林 桜児	愛着障がいとアディクション～精神病理から考える依存症支援～	和4年度熊本市依存症支援者向け研修会、熊本県庁、2023年1月
小林 桜児	対応に苦慮する人たちの理解と支援～ふりまわされていませんか？～	川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター中部地域支援室令和4年度治療指導専門職員現任集合研修、川崎市医師会館、2023年2月
小林 桜児	自傷・自殺・過量服薬	令和4年度アルコール依存症回復施設職員研修、オンライン講義、2023年2月
小林 桜児	アディクション問題の背景としての信頼障害について	愛知県令和4年度薬物関連問題関係機関連絡会議、オンライン講演、2023年2月
小林 桜児	Basics of Drug & Alcohol Addiction — Psychopathology and Treatment —	UNAFEI (国連アジア極東犯罪防止研修所) / JICA (国際協力機構) The 2nd International Training Course on Building Inclusive Societies, JICA東京センター、2023年3月
安田 新	ストレスと対処法について	神奈川県教育委員会教育局 健康講座 令和4年8月 @神奈川県教育委員会
安田 新	認知症の理解と認知症の人との接し方	認知症キャラバンメイト養成研修 令和4年7月 横浜市市民協働推進センター
伊津野拓司	症例提示 (有害事象への対応)	日本精神神経学会主催 第7回 rTMS実施者講習会
伊津野拓司	当院におけるrTMS治療について	神奈川県精神神経科診療所協会 学術講演会 反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) 療法セミナー in 神奈川
伊津野拓司	うつ病の早期発見の重要性について	神奈川県うつ病啓発活動 薬剤師対象セミナー 神奈川県、神奈川県薬剤師会、武田薬品工業株式会社 共催
伊津野拓司	気分障害の理解と対応	神奈川県精神科病院協会主催 精神科看護技術研修会
伊津野拓司	rTMSの導入	日本精神神経学会主催 第8回 rTMS実施者講習会
西村 康平	依存症の臨床における薬物治療について	横浜市港南区薬剤師
西村 康平	薬物乱用防止教室	厚木清南高等学校
西村 康平	HIV陽性者のメンタルヘルス～メンタルケア・コミュニケーションで心掛けたいポイント解説～	神奈川HIVフォーラム
西村 康平	薬物乱用者への支援	横浜市磯子区保護司会
西村 康平	ゲートキーパー養成研修	東京都国立市
西村 康平	HIV陽性者の支援～精神科医の立場から～	沖縄県公認心理師協会研修会
小林 真美	講義「精神疾患の服薬指導」	星薬科大学 非常勤講師
小林 真美	双極性障害の治療を考える会	大塚製薬
小林 真美	WEB講演会「MENTAT活用セミナー」	大塚デジタルヘルス
小林 真美	中小病院診療所委員会 精神科領域研修会 座長	神奈川県病院薬剤師会

○執筆

氏名	題名	掲載先
田口 寿子	医療観察法対象者のトラウマ — 実子殺事例の治療経験から	司法精神医学第18巻1号
村松 太郎 安田 拓人 浅田 和茂 五十嵐禎人 田口 寿子 竹川 俊也 中谷 陽二 箭野章五郎	責任能力の過去・現在・未来	法と精神医療第36巻
小林 桜児	ASとアディクション	おとなの自閉スペクトラム (本田秀夫監修), 金剛出版, 2022年 (11月8日出版)
小林 桜児	精神科診療のピットフォール — ギャンブル障害	精神医学 64 (5) : 790-794, 2022
小林 桜児	信頼障害としての薬物依存	刑政 133 (7) : 12-25, 2022
小林 桜児	依存症患者における小児期逆境体験 1,700人分の初診時調査の報告	精神科臨床 Legato 8 (2) : 84-88, 2022
小林 桜児	逆境体験とそだち—アディクション臨床の現場から	そだちの科学 39号 : 82-86, 2022
西村 康平	依存症専門外来でセクシュアルマイノリティであることを自らカミングアウトした物質使用障害患者の予備的研究	日本性科学会雑誌40 (1) : 51-61, 2022.
小林 真美	(共同執筆) EGUDEプロジェクトの挑戦—精神科領域の国内診療ガイドラインの教育と普及の推進—	日本病院薬剤師会会誌2号第59巻2号

○学会発表

氏名	論文(講演)名	学会等の名称	日程
田口 寿子	統合失調症との鑑別が困難だった精神鑑定事例	第118回日本精神神経学会学術総会 司法精神医学委員会ワークショップ	2022年6月17日
田口 寿子	論文投稿における倫理—オーサーシップについて—	第118回日本精神神経学会 精神神経学雑誌編集委員会ワークショップ	2022年6月18日
田口 寿子	対象行為による医療観察法対象者のトラウマ—実子殺事例の治療経験から—	第18回日本司法精神医学会 シンポジウム「医療観察法とトラウマインフォームドケア」	2022年7月10日
小林 桜児	トラウマと信頼障害仮説—依存症臨床の現場から—	第118回日本精神神経学会学術総会・シンポジウム34, 福岡	2022年6月16日
小林 桜児	アディクション臨床の魅力をいかに次世代に伝達していくか	R4年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会・シンポジウム18, 仙台	2022年9月9日
伊津野拓司 原口 春菜	体感幻覚に対して修正型電気痙攣療法を施行し効果のあった、老年期うつ病の一例	第119回日本精神神経学会学術総会	2022年11月22日
西村 康平	依存症専門外来の初診3年後予後調査からみたGayである物質使用障害患者の検討	第118回日本精神神経学会学術総会	2022年6月16日 ~18日
西村 康平	依存症患者への関わり方と問題行動への対応	公益社団法人全国自治体病院協議会精神科特別部会第59回総会・研修会	2022年8月26日
西村 康平	依存症専門外来における買い物依存症患者の予備的研究	2022年度アルコール・薬物依存関連学会学術総会	2022年9月8日 ~10日

1 精神医療センター基本方針

1 神奈川県精神科中核病院として、高度な医療を提供します。

- 精神科救急医療システムの基幹病院として充実した救急医療を提供し、地域の医療機関と連携します。
- 依存症、ストレスケア、思春期、医療観察法の4つの分野で専門的な医療を提供します。
- 先進的な医療に関する臨床研究や、神奈川県医療の将来を担う人材育成に取り組みます。

2 患者さんの思いを大切に、患者中心の医療を目指します。

- 患者さん参加のもとで治療計画を考え、多職種チームで支援します。
- インフォームド・コンセントを徹底し、患者さんの意思決定を尊重します。

3 みんなのちからで、安全な医療に取り組みます。

- 積極的な情報公開に努め、透明性の高い安全な医療を提供します。
- 患者さんやご家族とともに、安心して医療を受けられる療養環境を築きます。

4 地域との連携を深め、患者さんの社会復帰を支援します。

- 必要な入院をスムーズに受け入れるとともに、早期退院を目指して計画的な援助を行います。
- 関係機関との連携を密にし、在宅の患者さんの地域生活を支援します。
- 関係機関と連携し、地域における精神保健活動に協力します。

5 県立病院として健全な経営を目指します。

- 効率的で効果的な経営のあり方を追求し、自立した病院経営に努力します。

2 業務実績

(1) 各種指標

項目	計算方式	単位	令和4年度	令和3年度	対前年度比(%)	備考
病床数		床	323	323	100.0	
取扱患者数		人	155,796	147,796	105.4	
入院患者		人	98,797	92,933	106.3	
外来患者		人	56,999	54,863	103.9	
1日平均取扱者数		人	505.3	481.3	105.0	
入院患者	取扱入院患者数/年間日数	人	270.7	254.6	106.3	
外来患者	取扱外来患者数/年間外来診療日数	人	234.6	226.7	103.5	
病床利用率	取扱入院患者数/延病床数×100	%	83.8	78.8	106.3	
平均在院日数	入院延患者数/[(入院患者数+退院患者数)×0.5]	日	70.1	69.1	101.4	
入院外来患者比率	取扱外来患者数/取扱入院患者数×100	%	57.7	59.0	97.8	
職員数		人	328	320	102.5	期末人数
医師		人	25	22	113.6	期末人数
看護師		人	233	231	100.8	期末人数
その他職員		人	70	67	104.4	期末人数
病床100床当たりの職員数	全職員数/病床数×100	人	101.5	99.1	102.4	
医師	職員数/病床数×100	人	7.7	6.8	113.2	
看護師	職員数/病床数×100	人	72.1	71.5	100.8	
その他職員	職員数/病床数×100	人	21.6	20.7	104.3	
患者1人当たりの収益						
入院患者	入院収益/取扱患者数	円	28,213	28,426	99.2	
外来患者	外来収益/取扱患者数	円	8,249	8,151	101.2	
医師・看護師1人1日当たりの収益						
患者1人当たりの費用	医業費用/取扱患者数	円	31,506	32,018	98.4	
患者1人当たりの薬品費	薬品費/取扱患者数	円	1,333	1,208	110.4	
入院患者1人当たりの給食材料費	給食材料費/取扱入院患者数	円	828	789	104.9	
医業収益に対する費用比率	医業費用/医業収益×100	%	147.3	149.5	98.5	
給与費	給与費/医業収益×100	%	104.5	107.6	97.2	
材料費	材料費/医業収益×100	%	9.4	8.6	109.4	
経費	経費/医業収益×100	%	19.6	18.7	105.0	

3 患者の状況

(1) 外来患者の状況

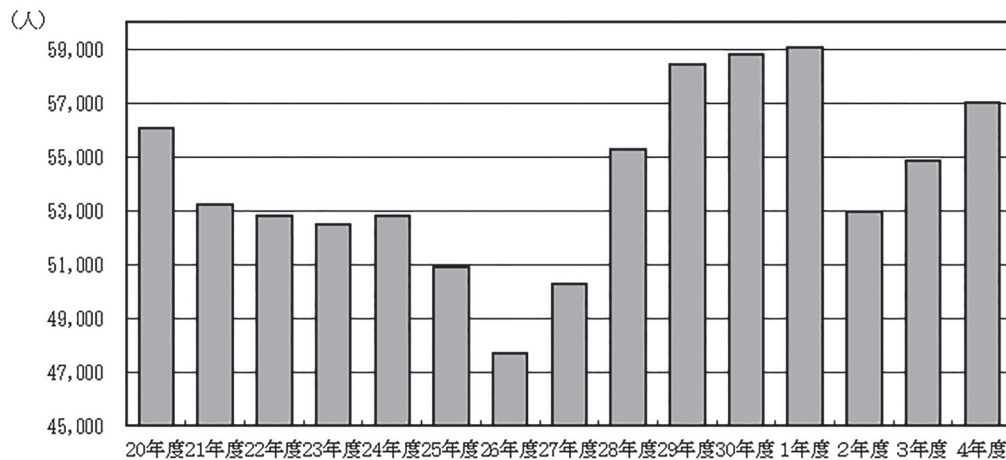
延患者数では2,136人増で対前年比3.9%増となっている。また、新患については168人増の対前年比9.2%増となっている。

ア 月別外来患者数

年度	月 区分	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
4	新患	173	192	186	163	169	158	156	165	171	144	144	167	1,988
	再来	4,365	4,360	4,613	4,445	4,618	4,630	4,526	4,664	4,729	4,578	4,368	5,115	55,011
	延患者数	4,538	4,552	4,799	4,608	4,787	4,788	4,682	4,829	4,900	4,722	4,512	5,282	56,999
	一日平均	226.9	239.6	218.1	230.4	217.6	239.4	234.1	241.5	245.0	248.5	237.5	240.1	234.6
3	新患	159	143	154	146	169	132	151	154	148	152	147	165	1,820
	再来	4,707	4,104	4,530	4,468	4,361	4,418	4,419	4,436	4,421	4,320	3,927	4,932	53,043
	延患者数	4,866	4,247	4,684	4,614	4,530	4,550	4,570	4,590	4,569	4,472	4,074	5,097	54,863
	一日平均	231.7	235.9	212.9	230.7	215.7	227.5	217.6	229.5	228.5	235.4	226.3	231.7	226.7

(注) 精神科のほか、内科・歯科受診者を含む

イ 外来患者数の年次推移状況



ウ 病類別新外来患者数

年度	病類 (ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害									
4	男	0	3	117	47	33	94	109	146	0	54	15	0	94	712
	女	0	4	45	15	32	87	163	230	11	44	18	0	57	706
	計	0	7	162	62	65	181	272	376	11	98	33	0	151	1,418
	構成比	0	0	11	4	5	13	19	27	1	7	2	0	11	100
3	男	2	6	132	48	43	80	140	152	0	61	21	2	97	784
	女	3	3	56	18	37	112	179	244	14	58	18	1	76	819
	計	5	9	188	66	80	192	319	396	14	119	39	3	173	1,603
	構成比	0	1	12	4	5	12	20	25	1	7	2	0	11	100

(注) 主病名で計上

工 年齢別新外来患者数

年度	区分	年齢							計
		19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
4	男	123	121	114	113	127	69	44	711
	女	171	151	102	99	88	36	60	707
	計	294	272	216	212	215	105	104	1,418
	構成比	20.7	19.2	15.2	15.0	15.2	7.4	7.3	100
3	男	131	109	105	118	97	36	60	656
	女	153	141	84	104	69	40	77	668
	計	284	250	189	222	166	76	137	1,324
	構成比	21.5	18.9	14.3	16.8	12.5	5.7	10.3	100

(注) 新外来患者とは、精神科初診患者と6ヵ月以上通院していない再初診患者のこと

オ 地域別実外来患者数

居住地域	年度	4		3		居住地域	年度	4		3		居住地域	年度	4		3	
		4	3	4	3			4	3	4	3			4	3		
横 濱 市	鶴見区	107	89	平塚市	51	43	足 柄 上 郡	中井町	0	2							
	神奈川区	180	159	鎌倉市	109	92		大井町	1	0							
	西区	128	125	藤沢市	285	244		松田町	1	1							
	中区	159	159	小田原市	23	21		山北町	2	1							
	南区	703	687	茅ヶ崎市	97	78		開成町	6	3							
	港南区	803	789	逗子市	31	26		足 柄 下 郡	箱根町	0	1						
	保土ヶ谷区	326	286	相模原市	79	74			真鶴町	0	0						
	旭区	181	154	三浦市	9	10			湯河原町	6	4						
	磯子区	273	259	秦野市	18	22			県内計	5,855	5,399						
	金沢区	228	208	厚木市	38	27		東京都	175	169							
	港北区	125	108	大和市	68	60	埼玉県	20	16								
	緑区	57	54	伊勢原市	12	9	千葉県	27	29								
	戸塚区	633	601	海老名市	28	26	群馬県	2	3								
	瀬谷区	84	70	座間市	27	18	栃木県	3	1								
	栄区	172	160	南足柄市	6	7	山梨県	2	0								
	泉区	223	201	綾瀬市	25	26	静岡県	15	14								
	青葉区	64	51	三浦郡葉山町	11	10	茨城県	4	4								
	都筑区	69	66	高座郡寒川町	13	7	その他の県	29	42								
	川 崎 市	川崎区	46	45	愛 甲 郡	3	3	県 外 計	277	278							
		幸区	32	23		愛川町	3		3	住 所 不 明	0	0					
中原区		35	34	清川村	0	0	計	6,132	5,676								
高津区		41	37	中 郡	12	13											
宮前区		33	34		大磯町	10		7									
多摩区		25	22	二宮町	2	6											
麻生区		19	19														

(注) 新患・再来を含め、同一患者について一人としてカウントした数

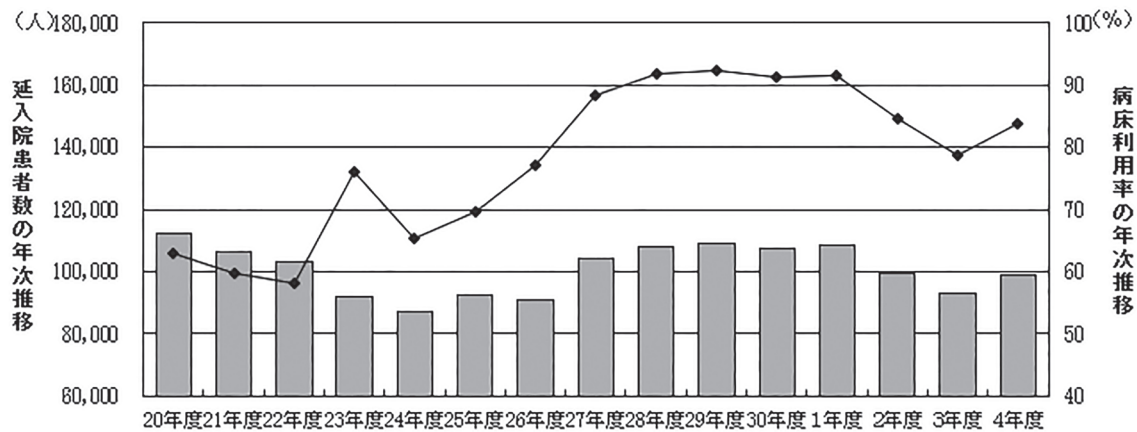
(2) 入退院患者の状況

令和4年度は、延患者数98,797人で前年度と比べ5,864人増で対前年度比6.3%増となっている。病床利用率は83.8%で対前年度比5.0ポイント増となっている。入院患者は前年度に比べ5.0%増となっている。入院形態は任意入院の構成比が対前年度比6.0ポイント増、医療保護入院が0.2ポイント増、措置入院が0.3ポイント減、鑑定入院は0.2ポイント増となっている。

ア 月別入退院患者数

年度	月 区分	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
4	入院	120	133	124	122	119	113	118	111	128	102	105	128	1,423
	退院	103	107	122	119	129	120	108	137	117	102	110	120	1,394
	延患者数	7,213	8,404	8,519	8,867	8,636	8,401	8,542	8,089	8,349	8,117	7,523	8,137	98,797
	病床利用率	74.4	83.9	87.9	88.6	86.2	86.7	85.3	83.5	83.4	81.1	83.2	81.3	83.8
3	入院	108	104	115	116	116	91	113	121	118	114	108	118	1,342
	退院	100	85	116	120	116	119	99	111	134	101	115	130	1,346
	延患者数	7,462	7,949	7,986	8,283	8,245	7,531	7,381	7,614	7,943	7,763	7,156	7,620	92,933
	病床利用率	77.0	79.4	82.4	82.7	82.3	77.7	75.1	80.1	80.8	79.0	79.1	76.1	78.8

イ 延入院患者数及び病床利用率の年次推移状況



ウ 病類別新入院患者数

年度	病類 (ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害									
4	男	0	10	157	14	24	187	109	46	0	18	4	0	41	610
	女	0	11	85	15	41	240	204	143	3	31	10	0	30	813
	計	0	21	242	29	65	427	313	189	3	49	14	0	71	1,423
	構成比	0	1	17	2	5	30	22	13	0	3	1	0	5	100
3	男	0	3	140	12	27	215	98	69	0	11	8	0	17	600
	女	0	4	97	21	50	259	155	110	1	28	4	0	13	742
	計	0	7	237	33	77	474	253	179	1	39	12	0	30	1,342
	構成比	0	0	17	2	5	33	18	13	0	3	1	0	2	100

工 病類別・年齢別入院患者数

年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	年齢構成比
	年齢	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害										
3	19歳以下	男	0	0	1	0	1	15	4	13	0	0	0	0	16	50	12.0
		女	0	1	0	0	4	37	17	37	0	3	2	0	20	121	
		小計	0	1	1	0	5	52	21	50	0	3	2	0	36	171	
	20～29歳	男	0	0	2	0	5	31	4	13	0	2	1	0	12	70	18.0
		女	0	0	9	6	21	29	43	53	1	16	4	0	4	186	
		小計	0	0	11	6	26	60	47	66	1	18	5	0	16	256	
	30～39歳	男	0	0	18	3	10	32	13	1	0	8	1	0	6	92	14.5
		女	0	3	10	1	9	32	26	21	0	6	3	0	3	114	
		小計	0	3	28	4	19	64	39	22	0	14	4	0	9	206	
	40～49歳	男	0	1	38	5	5	29	22	5	0	2	0	0	3	110	16.5
		女	0	1	15	7	5	44	33	14	0	4	1	0	1	125	
		小計	0	2	53	12	10	73	55	19	0	6	1	0	4	235	
	50～59歳	男	0	5	57	4	3	34	27	6	0	3	1	0	4	144	18.3
		女	0	1	30	0	2	42	33	5	0	2	0	0	1	116	
		小計	0	6	87	4	5	76	60	11	0	5	1	0	5	360	
	60～69歳	男	0	2	34	1	0	30	28	2	0	2	0	0	0	99	12.7
		女	0	1	14	1	0	35	23	6	2	0	0	0	0	82	
		小計	0	3	48	2	0	65	51	8	2	2	0	0	0	181	
	70歳以上	男	0	2	7	1	0	16	11	6	0	1	1	0	0	45	8.0
		女	0	4	7	0	0	21	29	7	0	0	0	0	1	69	
小計		0	6	14	1	0	37	40	13	0	1	1	0	1	114		
計	男	0	10	157	14	24	187	109	46	0	18	4	0	41	610	100.0	
	女	0	11	85	15	41	240	204	143	3	31	10	0	30	813		
	計	0	21	242	29	65	427	313	189	3	49	14	0	71	1,423		
	構成比	0	1	17	2	5	30	22	13	0	3	1	0	5	100		
3	19歳以下	男			1	0	1	12	8	19		0	2		9	52	9.9
		女			0	4	3	26	11	37		3	0		5	89	
		小計			1	4	4	38	19	56		3	2		14	141	
	20～29歳	男		0	7	0	8	27	9	19		2	1		3	76	15.3
		女		2	8	3	19	44	32	21		10	1		2	142	
		小計		2	15	3	27	71	41	40		12	2		5	218	
	30～39歳	男			17	6	3	34	15	5		1	2		1	84	15.2
		女			23	2	10	41	23	21		5	3		4	132	
		小計			40	8	13	75	38	26		6	5		5	216	
	40～49歳	男		0	43	1	4	47	20	8		1	1		2	127	19.2
		女		2	24	6	9	53	26	18		7	0		1	146	
		小計		2	67	7	13	100	46	26		8	1		3	273	
	50～59歳	男		1	41	4	7	40	23	11	0	5	1		1	134	17.0
		女		0	26	6	4	40	25	4	1	2	0		0	108	
		小計		1	67	10	11	80	48	15	1	7	1		1	242	
	60～69歳	男		1	22		4	37	19	3					1	87	10.0
		女		0	10		1	27	14	3					1	56	
		小計		1	32		5	64	33	6					2	143	
	70歳以上	男		1	9	1	0	18	4	4		2	1			40	7.7
		女		0	6	0	4	28	24	6		1	0			69	
小計			1	15	1	4	46	28	10		3	1			109		
計	男	0	3	140	12	27	215	98	69	0	11	8	0	17	600	100.0	
	女	0	4	97	21	50	259	155	110	1	28	4	0	13	742		
	計	0	7	237	33	77	474	253	179	1	39	12	0	30	1,342		
	構成比	0	1	18	2	6	35	19	13	0	3	1	0	2	100		

才 地域別実入院患者数

居住地域	年度		居住地域	年度		居住地域	年度		
	4	3		4	3		4	3	
横浜市	825	827	横須賀市	33	33	足柄上郡	2	2	
	鶴見区	28	29	平塚市	21	10	中井町	0	1
	神奈川区	49	38	鎌倉市	18	35	大井町	0	0
	西区	24	33	藤沢市	75	95	松田町	0	0
	中区	42	44	小田原市	8	8	山北町	1	0
	南区	113	108	茅ヶ崎市	36	28	開成町	1	1
	港南区	115	136	逗子市	10	7	足柄下郡	3	0
	保土ヶ谷区	71	59	相模原市	34	29	箱根町	0	0
	旭区	40	29	三浦市	1	1	真鶴町	0	0
	磯子区	42	32	秦野市	10	14	湯河原町	3	0
	金沢区	53	30	厚木市	16	9	県内計	1,252	1,198
	港北区	32	26	大和市	18	18	東京都	45	46
	緑区	15	18	伊勢原市	7	3	埼玉県	8	2
	戸塚区	91	110	海老名市	5	15	千葉県	10	14
	瀬谷区	16	32	座間市	11	2	茨城県	1	0
	栄区	26	30	南足柄市	3	3	群馬県	0	1
	泉区	37	45	綾瀬市	11	7	栃木県	0	0
	青葉区	13	18	三浦郡葉山町	0	2	静岡県	5	7
	都筑区	18	10	高座郡寒川町	9	2	その他の県	22	18
	川崎市	92	89	愛甲郡	1	1	県外計	91	88
川崎区		20	17	愛川町	1	1	住所不明	0	12
幸区		10	10	清川村	0	0	計	1,343	1,277
中原区		13	13	中郡	3	2			
高津区		16	17	大磯町	3	1			
宮前区		17	16	二宮町	0	1			
多摩区		11	12						
麻生区		5	4						

力 入院費負担区分別患者数（令和4年3月末現在在院患者一覧表）

年度	負担区分	健康保険法		国民健康保険法	生活保護法	精神保健福祉法	感染症法(第37条)	自費	その他	計
		本人	家族							
4	男	19	11	50	19	6	0	0	18	123
	女	2	41	53	27	3	0	1	12	139
	計	21	52	103	46	9	0	1	30	262
	構成比	8.0	19.3	39.9	17.6	3.4	0.0	0.4	11.5	100.0
3	男	8	12	58	17	4	1	0	23	123
	女	3	27	44	18	8	0	0	10	110
	計	11	39	102	35	12	1	0	33	233
	構成比	4.7	16.7	43.8	15.0	5.2	0.4	0.0	14.2	100.0

(注) 本表のその他とは、「臨床研究入院」「医療観察法」等の患者が含まれる

キ 入院形態別患者数

年度	形態	区分	月												計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
4	任意	男	32	35	47	27	24	42	25	37	36	25	20	38	388
		女	48	45	38	40	43	35	54	44	46	41	43	56	533
		小計	80	80	85	67	67	77	79	81	82	66	63	94	921
		構成比	66.7	60.2	68.5	54.9	59.3	68.1	69.9	73.0	64.1	64.7	60.0	73.4	64.7
	医療保護	男	6	12	15	16	16	7	15	4	9	10	12	8	130
		女	21	22	15	22	20	13	10	10	20	14	18	17	202
		小計	27	34	30	38	36	20	25	14	29	24	30	25	332
		構成比	22.5	25.6	24.2	31.1	31.9	17.7	21.2	12.6	22.7	23.5	28.6	19.5	23.3
	措置	男	6	9	4	9	5	9	8	7	7	5	6	4	79
		女	5	7	5	7	8	4	2	7	8	6	3	4	66
		小計	11	16	9	16	13	13	10	14	15	11	9	8	145
		構成比	9.2	12.0	7.3	13.1	10.9	11.5	8.5	12.6	11.7	10.8	8.6	6.3	10.2
	鑑定	男		2		0	1					0	1	1	5
		女		0		1	0					1	1	0	3
		小計	0	2	0	1	1	0	0	0	0	1	2	1	8
		構成比	0.0	1.5	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.9	0.8	0.6
	応急	男	1						0		0				1
		女	0						2		1				3
		小計	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	4
		構成比	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	医観法入院処遇	男	0	1	0	0	2	1	2	1	0	0	0	0	7
		女	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	6
		小計	1	1	0	0	2	1	4	1	2	0	1	0	13
		構成比	0.8	0.8	0.0	0.0	1.7	0.9	3.5	0.9	1.6	0.0	1.0	0.0	0.9
臨床研究	男													0	
	女													0	
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
計	男	45	59	66	52	48	59	50	49	52	40	39	51	610	
	女	75	74	58	70	71	54	68	62	76	62	66	77	813	
	計	120	133	124	122	119	113	118	111	128	102	105	128	1,423	
3	任意	男	21	25	28	29	36	25	29	29	34	32	29	31	348
		女	41	35	47	44	43	36	44	45	43	40	33	37	488
		小計	62	60	75	73	79	61	73	74	77	72	62	68	836
		構成比	51.7	45.1	60.5	59.8	69.9	54.0	64.6	66.7	60.2	70.6	59.0	53.1	58.7
	医療保護	男	17	13	13	11	10	12	9	12	11	14	17	13	152
		女	13	9	18	21	15	10	16	18	12	13	14	18	177
		小計	30	22	31	32	25	22	25	30	23	27	31	31	329
		構成比	25.0	16.5	25.0	26.2	22.1	19.5	21.2	27.0	18.0	26.5	29.5	24.2	23.1
	措置	男	11	11	6	4	4	4	6	9	8	7	5	8	83
		女	4	7	1	5	5	3	6	6	9	6	7	7	66
		小計	15	18	7	9	9	7	12	15	17	13	12	15	149
		構成比	12.5	13.5	5.6	7.4	7.6	6.2	10.2	13.5	13.3	12.7	11.4	11.7	10.5
	鑑定	男		1		1		0	1			0		1	4
		女		0		0		1	0			1		0	2
		小計	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	6
		構成比	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.9	0.8	0.0	0.0	1.0	0.0	0.8	0.4
	応急	男			0		0		0				0	1	1
		女			1		1		1				1	0	4
		小計	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	5
		構成比	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	1.0	0.8	0.4
	医観法入院処遇	男	1	2	0	1	2		1	1	0	1	2	1	12
		女	0	1	1	0	0		0	1	1	0	0	1	5
		小計	1	3	1	1	2	0	1	2	1	1	2	2	17
		構成比	0.8	2.3	0.8	0.8	1.7	0.0	0.9	1.8	0.8	1.0	1.9	1.6	1.2
臨床研究	男													0	
	女													0	
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
計	男	50	52	47	46	52	41	46	51	53	54	53	55	600	
	女	58	52	68	70	64	50	67	70	65	60	55	63	742	
	計	108	104	115	116	116	91	113	121	118	114	108	118	1,342	

ク 病類別・在院期間別在院患者数

年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比	
	期間	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害											
																		男性
4	1年未満	男	0	0	22	3	4	26	15	8	0	3	1	0	3	85	78.2	
		女	0	3	8	2	2	40	30	58	0	2	3	0	5	120		
		小計	0	3	30	5	6	66	45	33	0	5	4	0	8	205		
	1～2年	男						18	1	1				1		1	22	13.4
		女						11								2	13	
		小計	0	0	0	0	0	29	1	1	0	0	1	0	3	35		
	3～4年	男						2									2	1.5
		女						2									2	
		小計	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4		
	5～9年	男						6									6	2.7
		女						1									1	
		小計	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7		
	10～19年	男						6									6	2.7
		女						1									1	
		小計	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7		
	20～29年	男						2									2	1.1
		女						1									1	
		小計	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3		
	30年以上	男															0	0.4
		女						1									1	
小計		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1			
計	男	0	0	22	3	4	60	16	9	0	3	2	0	4	123	100.0		
	女	0	3	8	2	2	57	30	25	0	2	3	0	7	139			
	計	0	3	30	5	6	117	46	34	0	5	5	0	11	262			
	構成比	0.0	1.1	11.5	1.9	2.3	44.7	17.6	13.0	0.0	1.9	1.9	0.0	4.2	100.0			
3	1年未満	男			14		3	45	8	14		1	1		3	89	68.7	
		女			9		4	40	17	16		2	0		3	91		
		小計			23		7	85	25	30		3	1		6	180		
	1～2年	男		1			1	13	1						1	0	17	10.3
		女		0			0	8	0						1	1	10	
		小計		1			1	21	1						2	1	27	
	3～4年	男						7									7	3.1
		女						1									1	
		小計						8									8	
	5～9年	男						9									9	4.2
		女						2									2	
		小計						11									11	
	10～19年	男						3									3	1.1
		女						0									0	
		小計						3									3	
	20～29年	男						2									2	1.5
		女						2									2	
		小計						4									4	
	30年以上	男															0	0.0
		女															0	
小計																0		
計	男	0	1	14	1	3	79	9	14	0	1	1	1	3	127	100.0		
	女	0	0	9	0	4	53	17	16	0	2	0	1	4	106			
	計	0	1	23	1	7	132	26	30	0	3	1	2	7	233			
	構成比	0.0	0.4	8.8	0.4	2.7	50.4	9.9	11.5	0.0	1.1	0.4	0.8	2.7	88.9			

ケ 病類別・転帰別退院患者数

年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比	
	転帰	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害											
																		男
4	全快	男			1			2	2				1			6	0.6	
		女							1	1						2		
		小計				1			2	3	1			1		8		
	軽快	男		5	99	9	14	124	89	31			16	2		34	423	72.6
		女		8	52	8	24	164	163	113		7	27	5		18	589	
		小計		13	151	17	38	288	252	144		7	43	7		52	1,012	
	未治	男		1	29	2	5	5	4	6			1			2	55	9.8
		女		1	16	6	15	6	13	14			8	1		1	81	
		小計		2	45	8	20	11	17	20			9	1		3	136	
	転医	男		7	13	3	1	62	16	2				1		7	112	15.4
		女		5	6			53	20	12			2	2		2	102	
		小計		12	19	3	1	115	36	14			2	3		9	214	
	死亡	男				1											3	0.2
		女															0	
		小計				1											3	
	鑑定了	男									1	1					3	0.3
女																1		
小計										1	1					4		
医観法入院処遇終了	男			1				11								12	1.2	
	女		1						2	2						5		
	小計		1	1					13	2						17		
臨研終了	男															0	0.0	
	女															0		
	小計															0		
計	男		0	13	144	15	20	206	112	40	0	17	4	0	43	614	99.4	
	女		0	15	74	14	39	226	199	140	7	37	8	0	21	780		
	計		0	28	218	29	59	432	311	180	7	54	12	0	64	1,394		
	構成比		0.0	2.0	15.6	2.1	4.2	31.0	22.3	12.9	0.5	3.9	0.9	0.0	4.6	100.0		
3	全快	男														0	0.0	
		女														0		
		小計														0		
	軽快	男		1	4	119	15	27	156	82	36	0	7	4		21	472	77.8
		女		1	5	91	12	35	213	127	92	1	19	6		11	613	
		小計		2	9	210	27	62	369	209	128	1	26	10		32	1,085	
	未治	男				12	2	1	3	1	2		1			1	23	4.1
		女				11	4	6	3	7	3		0			0	34	
		小計				23	6	7	6	8	5		1			1	57	
	転医	男		1	1	13	0	5	53	17	6	0	3	4	1	8	112	14.4
		女		0	1	7	1	4	36	22	9	1	5	1	0	2	89	
		小計		1	2	20	1	9	89	39	15	1	8	5	1	10	201	
	死亡	男				1											1	0.2
		女				0											2	
		小計				1											3	
	鑑定了	男															0	0.0
女																0		
小計																0		
医観法入院処遇終了	男															0	0.0	
	女															0		
	小計															0		
臨研終了	男															0	0.0	
	女															0		
	小計															0		
計	男		2	5	145	17	33	212	100	44	0	11	8	1	30	608	96.6	
	女		1	6	109	17	45	254	156	104	2	24	7	0	13	738		
	計		3	11	254	34	78	466	256	148	2	35	15	1	43	1,346		
	構成比		0.2	0.8	18.2	2.4	5.6	33.4	18.4	10.6	0.1	2.5	1.1	0.1	3.1	96.6		

コ 病類別・在院期間別退院患者数（4年度）

病類(ICD)	期間	区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害										
1年未満	男			12	143	13	19	189	111	40		17	3		43	590	97.8
	女			14	73	14	39	222	198	140	7	37	8		21	773	
	小計			26	216	27	58	411	309	180	13	32	8		64	1,363	
1～2年	男			1		2		13	1				1			18	1.7
	女			1	1			3	1							6	
	小計			2	1			16	2				1			24	
3～4年	男				1		1	2								4	0.4
	女							1								1	
	小計				1		1	3								5	
5～9年	男							2								2	0.1
	女															0	
	小計							2								2	
10～19年	男															0	0.0
	女															0	
	小計															0	
20～29年	男															0	0.0
	女															0	
	小計															0	
30年以上	男															0	0.0
	女															0	
	小計															0	
計	男		0	13	144	15	20	206	112	40	0	17	4	0	43	614	100.0
	女		0	15	74	14	39	226	199	140	7	37	8	0	21	780	
	計		0	28	218	27	59	432	311	180	13	32	9	0	64	1,394	
	構成比		0.0	2.0	15.6	1.9	4.2	31.0	22.3	12.9	0.9	2.3	0.6	0.0	4.6	100.0	

(3) 救急医療の状況

年度	区分	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
4	取扱件数	(16)	(21)	(14)	(12)	(24)	(16)	(22)	(16)	(22)	(18)	(14)	(14)	(209)
		27	28	21	23	29	25	27	24	28	24	17	21	294
	入院	(15)	(21)	(13)	(12)	(22)	(16)	(21)	(16)	(21)	(18)	(11)	(14)	(200)
	18	25	16	21	22	19	23	18	21	18	13	15	229	
	外来処置	(1)	(0)	(1)	(0)	(2)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(3)	(0)	(9)
		9	3	5	2	7	6	4	6	7	6	4	6	65
3	取扱件数	(18)	(22)	(12)	(19)	(21)	(9)	(16)	(22)	(23)	(23)	(16)	(21)	(222)
		30	34	21	28	35	17	27	38	35	30	27	29	351
	入院	(18)	(19)	(9)	(15)	(17)	(9)	(15)	(20)	(17)	(17)	(14)	(19)	(189)
	26	25	15	19	28	13	22	31	25	20	20	21	265	
	外来処置	(0)	(3)	(3)	(4)	(4)	(0)	(1)	(2)	(6)	(6)	(2)	(2)	(33)
		4	9	6	9	7	4	5	7	10	10	7	8	86

(注) () は、精神保健診察件数で内数

4 業務の状況

(1) 看護

ア 病棟機能と看護職員配置（令和5年4月1日現在）

副院長兼看護局長 1名		副看護局長（業務担当）1名 （教育担当）1名				
病棟名	病棟機能		病床数	看護科長	看護職員	病棟技能員 看護補助者
2A	身体ケア	閉鎖病棟	35（準保護室11） 結核病床（2）	1	20	3
2B	依存症	開放病棟	45（準保護室7）	1	22	1
3A	地域移行支援	閉鎖病棟	40（準保護室6）	1	17	1
3B	ストレスケア	開放病棟	30（準保護室3）	1	17	1
4A	高度ケア	閉鎖病棟	40（保護室6・準保護室6）	1	23	1
4B	思春期	閉鎖病棟	30（保護室1・準保護室6）	1	19	1
5A	救急	閉鎖病棟	30（保護室10・準保護室2）	1	27	1
5B	救急	閉鎖病棟	40（保護室4・準保護室8）	1	22	1
F	医療観察法病棟	閉鎖病棟	33	1	42	1
小計			323（稼動病床数）	9	209	11
外来				1	10	1
医療安全推進室				1		
連携サポートセンター 地域連携・訪問支援				1	5	
デイ・ケア					2	
看護教育科					2	
育産休・他					7	
合計			323	12	235	12

※契約職員および非常勤職員を含む

イ 看護局目標

1. 看護局ミッション

患者さんに寄り添い、自己決定・自立を支援し、患者さんと共に可能性にチャレンジします

2. 看護局ビジョン

1. 患者さんやご家族の尊厳および人権を尊重し、患者さんの意思決定を支援します
2. 精神科看護の専門性を追求し、患者さんやご家族に信頼される質の高い看護を提供します
3. 患者さんの社会生活を支えるため、チーム医療の推進者としての役割を發揮します
4. 看護の本質を追求し、誇りとやりがいを持てる人材を育成します
5. 経営的な視点を持ち、資源を有効に活用します。

3. 令和4年度 看護局目標

精神医療センターに求められる専門性の高い看護を実践する

1. 精神科看護の質の向上・人材育成
 - (1) 看護の専門性を高める

- (2) 多様な疾患を持つ患者への対応力を高める
 - (3) 安全で安心な看護を提供する
 - (4) 他部署・多職種と協働し地域生活を見据えた看護を提供する
 - (5) 倫理的対応力や接遇の向上を図る
2. 経営への貢献
- (1) 資源を有効に活用し経営に貢献する
3. 働きやすい職場
- (1) 看護のやりがいを持てる職場をつくる
 - (2) 業務を改善し働きやすい職場をつくる

ウ 令和4年看護局目標評価

1. 精神科看護の質の向上・人材育成

- ・各セクションにおいて、クライシスプラン、セルフモニタリングシートの活用や退院支援、各種プログラムの運営、合併症予防等、患者にとって必要な支援の充実に取り組み、多職種と情報共有をし、チーム医療を実践した。また、急変時対応検討会議員が中心となり、BLSや胸骨圧迫トレーニングを推進して、トレーニング実施は、100%に達し、実際の急変時に生かされた。
- ・看護局のインシデント・アクシデント報告件数は、前年比7.3%増加、0-1レベル報告も上がり安全文化が少しずつ浸透している。全セクションの看護安全委員が分析ツールを用いて、具体的な防止対策に繋げた。
- ・COVID-19は、2セクションで発生したがセクション内で収束できた。感染予防対策が適切に行われるようになっていく。
- ・定点における隔離・身体的拘束率は減少傾向（4%前後）にある。より行動制限適正化のために看護記録のオーデットを実施し、行動制限カンファレンスの記録や看護計画立案の課題が明確になった。
- ・人材育成では、専門性の質の向上を目的に、各セクションの患者特性を踏まえ、off-JTからOJTにつなぐ方策やナラティブ、看護実践の可視化を強化する取組みを行った。人材育成の考え方や「共育」が浸透し、院内研修受講者だけでなく、支援者およびチームも学びを実感する評価であった。
- ・看護科長ワーキンググループが、主任以上のマネジメント能力開発支援にマネジメントラダーを適切に活用できるよう評価指標の作成に取り組み、さらに看護科長代理会議においても主任看護師自らが検討を開始している。十分な活用には至らないが自ら学ぶ組織としての一歩と考える。

2. 組織への貢献

- ・COVID-19 感染症第6・7波では、職員の感染と重なり人的資源の逼迫状況が生じたが、全セクションの協力でリリーフ体制をとり、COVID-19 感染症患者の受け入れと通常精神科医療の両立に大きな影響はなく、病床利用率86%台を維持できた。令和5年5月に感染症法5類へ変更後に向けて、全セクションで対応できるよう準備を整えている。
- ・長期入院患者の退院支援は、スケジュールボードの作成や在院日数を可視化する工夫を各セクションが行ない、ケースワークを実施できた。更に次年度は、地域でその人らしく暮らす生活者として捉えた支援の在り方や地域資源の概況を理解し、入院から地域生活を支えられる看護師の育成を課題とする。
- ・5A 病棟は、6月から2交代勤務を開始した。看護職員夜勤配置加算算定の継続や夜間の時間外と通勤費用の面で経費を削減できた。一般病棟では、看護科長会ワーキンググループ・看護科長代理会・看護補助者会議が中心となり、看護補助者充実加算の取得を目指し体制を整えた。次年度には、厚生局に申請予定である。
- ・看護防災会議では、机上訓練を通して課題を明確にし、所内防災会議に提言することができた。火災に関する物品とアクションカードは整っているため、次年度は、地震のアクションカードに着手する。

3. 働きやすい職場づくり

- ・ COVID-19感染症患者受け入れ病棟へのリリーフ体制を病床利用率、職員の状況（夜勤回数、休み等）を踏まえ全セクションで協力して行えた。また、短時間リリーフを看護職だけではなく、技能員・看護補助者に拡大できたことは、タスクシェアの足がかりとなった。
- ・ 看護科長会議の看護補助者との協働WGで、技能員・看護補助者の補完体制を再構築し、チーム制とした。また、シフト交換の曜日を決め全員で行うことなど業務改善をしたことで、時間短縮や休みが取りやすくなった。
- ・ 看護科長会議の働き方ワーキンググループが中心となり、出勤退勤の確実な打刻、時間外申請・休暇等の事前申請に取り組んだ。その結果、適正な労務管理に繋がった。
- ・ 看護局全体平均の時間外4.7時間（R3. 5.4時間）と年休取得率11日2時間（R3. 14日4時間）。時間外は、病床利用率回転率が前年度を上回ったにも拘らず減少しており、業務整理、局内のリリーフ対応で調整ができたことの成果と考える。また、年休取得率は、コロナ特殊休暇や子休暇・家族介護等の有給休暇の取得やそのための勤務調整が必要となったことが取得日数の減少に影響したと考える。

令和4年度 院内教育研修実施状況

研修名		目的	研修日	時間	方法	対象者	人数
採用時	採用時	1. 精神医療センターの概要を理解し、組織・環境・業務への適応を図る 2. 専門職業人としての自覚を促す	4月	5日間	・ 講義 ・ 病院見学 ・ 演習 ・ CVPPP	R4年度新採用者、転入者、前年度採用者、交流研修者他	11
			1日(金) 4日(月) 5日(火) 6日(水) 7日(木)	8:30-17:15			
支援プログラム	精神科看護技術研修①	看護師として必要な身体観察の基礎を学び、異常の早期発見ができる	4月	3時間	・ 講義 ・ 演習	R4年度新採用者、その他看護科長が認めた者	11
	22日(金)	13:30-16:30					
支援プログラム	精神科看護技術研修②	精神科における看護技術の実践を学ぶ	5月	3時間45分	・ 講義 ・ 演習 ・ デモンストレーション	R4年度新採用者、その他看護科長が認めた者	11
	2日(月)	13:30-17:15					
ステップI	メンバーシップ	看護チームについての理解を深めメンバーシップを発揮するための能力を養う	5月	2時間	・ 講義 ・ GW (カード法) ・ ワーク	ステップIを申請する者	7
	20日(金)	14:30-16:30					
	精神科看護の基礎的理解 *聴講可	精神科看護を行う上で、基盤となる知識を広く理解する	6月	2時間	・ 講義 ・ GW	ステップIを申請する者	11
			10日(金)	9:30-11:30			
			7月				
			8日(金)				
			9月				
			9日(金)				
			10月				
			14日(金)				
11月	3時間						
11日(金)							
12月	9:30-12:30						
9日(金)	9:30-12:30						
ステップII	疾患理解に基づく看護実践 *聴講可	主要な精神疾患の特性をふまえた看護が提供できる力を養う	7月	2時間	・ 講義 ・ GW ・ セクション内発表	ステップIIを申請する者	12
			6日(水)	13:30-15:30			
			9月				
			7日(水)				
			10月				
			21日(金)				
			11月				
			18日(金)				
12月	3時間						
23日(金)	13:30-15:15						

研修名		目的	研修日	時間	方法	対象者	人数
ステップII	リーダーシップI (チーム医療におけるリーダーシップ)	チーム医療の中でリーダーシップを発揮できる能力を養う	10月	1時間45分	・講義 ・GW ・セクション内発表	ステップIIを申請する者	1
			5日(水)	13:30-15:15			
			12月	1時間			
			14日(水)	13:30-14:30			
ステップIII	リーダーシップII	問題解決法を学び、セクションの課題を捉えリーダーシップ能力を発揮した問題解決への取り組みができる	6月	13:30-16:30	・講義 ・GW	ステップII以上の者または看護科長が認める者	15
			17日(金)				
			9月		・GW		
			16日(金)				
			10月		・GW		
			28日(金)				
			12月		・発表会		
	16日(金)						
	教育(共育)指導	教育・指導における基本的姿勢を学び、指導の場面で実践することができる	5月	9:30-12:00	・講義、GW	ステップII以上の者または看護科長が認める者	9
			9日(月)				
			6月	13:30-15:30	・GW		
			24日(金)				
			8月		・発表		
26日(金)							
対象理解に基づく看護実践 *7/28のみ聴講可 ★最終年に1つのみ受講可	対象理解を深め、適切な状況判断に基づいて、患者の意思決定支援を支援する能力を養う	7月	13:30-16:30	・講義 ・GW	ステップII以上の者または看護科長が認める者	0	
		27日(水)					
		9月		・GW			
		28日(水)					
		11月	13:30-15:30	・GW			
		1日(水)					
12月	・発表会						
7日(水)							
ステップIV	問題解決・リーダーシップ【機構研修】	所属セクションで起きている問題の本質を捉え、問題解決方法	6月	1日	・病院機構	ステップIII以上の者または看護科長が認める者	3
			2日(水)				
			8月	13:30-16:30	・院内 ・GW		
			12日(金)				
	10月	1日	・病院機構				
	5日(水)						
	7月			13:30-16:30	・院内 ・GW		
	1日(金)						
	8月	13:30-16:30	・院内 ・GW				
	24日(水)						
	10月	1日	・病院機構				
	31日(月)						
6月	1日			・病院機構	ステップIII以上の者または看護科長が認める者	2	
17日(金)							
9月	13:30-16:30	・院内 ・GW					
14日(水)							
10月	1日	・病院機構					
18日(水)							

研修名		目的	研修日	時間	方法	対象者	人数
ステップⅣ	看護研究 (看護研究計画書作成)	系統的な文献検討を行い、関心ある研究テーマに関する研究計画書を立案する	4月	3時間45分	講義/GW	精神専門研修の受講者 またはステップⅣの研修の最終年となる者または看護科長が認める者	3
			19日(火)	13:30-17:15			
			6月	1時間30分	GW		
			1日(水)	13:30-15:00			
			9月	1時間30分	GW		
			9日(金)	13:30-15:00			
9月	1時間30分	GW					
29日(木)	13:30-15:00						
ステップⅤ	看護研究	看護研究に取り組み、発表することができる			研究指導	ステップⅣ以上の者 で看護科長が認める者	0
			6・10・12月	外部講師指導	*7月・2月に倫理審査委員会		
			1月上旬	研究計画書提出			
				未定	発表会		
ステップⅤ	マネジメント【機構研修】	マネジメントプロセスを理解し、病院や部門の理念に基づいて組織・セクションの目標達成に取り組むことができる	6月	1日	病院機構	ステップⅣ以上の者	0
			27日(月)				
			10月	1時間30分	院内 GW		
			6日(木)	13:30-15:00			
11月	1日	病院機構					
16日(水)							
役割	プリセプター研修		R5年2月	3時間	講義 GW	ステップⅡ以上でR4年度プリセプター担当予定者	9
			6日(月)	13:30-16:30			
	新任主任研修【機構研修】	中間管理職として、知識と自覚を持ち、看護科長の役割を担うことができる	6月	1日	病院機構	ステップⅢ以上の者 または看護科長が認める者	2
			10日(金)				
			8月	3時間	院内 GW		
			8日(月)	13:30-16:30			
	10月	1日	病院機構				
	14日(金)						
	医療安全【機構研修】	医療安全の考え方を理解し、組織の一員として、医療事故防止に取り組むことができる	5月	1日	病院機構	ステップⅢ以上の者 または看護科長が認める者	3
			20日(金)				
			7月	3時間	院内 GW		
			15日(金)	13:30-16:30			
9月	1日	病院機構					
30日(金)							
実習指導者研修	実習指導者としての役割と関わりについて学習し、今後の指導の手がかりを得る。	5月	1時間	講義 意見交換	R4年度実習指導者会議メンバー、または看護科長が認めた者	14	
		26日(木)	16:00-17:00				
		10月	1時間	講義 ディスカッション		11	
27日(木)	16:00-17:00						
その他	セクション間交流	他セクションにおける実務を体験することで、自己及び自セクションの看護に活かす	随時	1~5日	シャドウイング	研修を希望するもの、または看護科長が認める者	2
			随時申請可(希望による)	8:30-17:15			
	地域連携研修	地域における精神障害者を取り巻く社会資源の実際や、利用者の思い・生活状況を知り、退院支援に活かす方法を考えることができる	11月	2日間	施設見学(1日) 講義 GW	全看護職員	9
			29日(火)	8:30-17:15			
			30日(水)	13:30-17:15			
	スキルアップ	倫理的対応能力の向上を図り、精神看護実践の質を維持する	7月	3日間	未定	院内研修を5年以上受講していない看護職員	13
13日(水)							
1月			16:00-17:00				
			31日(火)			9	

研修名		目的	研修日	時間	方法	対象者	人数
静脈注射	静脈注射の実際	医師の指示に基づいた静脈注射を安全に実施するために必要な知識・技術を習得する	7月	13:30-17:15	・講義 ・演習	看護師が行う静脈注射プログラム規定による	9
			19日(火)				
			9月	4時間	・試験		5
			6日(火)				
			21日(水)	・予備日	8		
			1月	4時間			・試験
			27日(金)				
2月	2時間	・予備日	2				
13日(月)							
	精神看護専門研修	精神看護専門領域における実践能力を高め、質の高い看護を提供するために必要な能力の向上を図る	カリキュラムによる		・他部署研修 ・事例研究	ステップⅢ以上	6
	看護研究発表会	看護研究活動を通して得た成果を発表し、相互の学びとする	9月	1時間30分	発表会	全看護職員	5
			29日(木)	13:30-15:00			
	伝達講習会	院外研修の報告を受け、自己研鑽への動機づけとする	2月	2時間30分	講習会		12
			22日(水)	13:30-16:00			
		3月	2時間15分		8		
		8日(水)	13:30-15:45				

令和4年度 学会・院外研修参加実績

主 催	学会名・研修名	開催地	開催日	参加者
県立病院交流研修	循環器呼吸器病センター	県立病院	2/13～18	1
神奈川県看護協会	看護学生とともに育つ臨地実習指導	県内	6/15	2
	教育担当者研修Ⅱ ～院内の教育を考えよう！ 教育プログラムの立案・運営・評価～	県内	1/24～25	1
	リスクセンスを高める（応用編） ～インシデント分析から安全対策の提案まで～	県内	1～2月	1
	看護補助者のための活用推進のための看護管理者研修	県内	5/15・5/19 5/22	5
	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	県内	5/12～8/24	1
	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	県内	10/6～2/24	1
日本精神科看護協会	対話で患者を支えるオープンダイアログ	東京	8/28	1
	トラウマ・インフォームドケアの基本と実践	東京	8/27	2
DPAT事務局	DPAT先遣隊研修	WEB+ 東京	8/27 10/9	1
	かながわDPAT研修	県内	11/5～6	2
神奈川県精神科病院協会	精神科中堅看護職員研修	県内	①2/7 ②2/20	2
日本精神科医学会	日本精神科医学会学術教育研修会	WEB	6/30	1
日本精神神経学会	第5回反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) 講習会（オンライン）	WEB	7/31	3
	NeuroStar TMS治療装置実技講習会	東京	1/28	3
全国児童青年精神科医療施設協議会	全国児童青年精神科医療研修会	WEB	2/23～24	2
医療観察法関連職種研修会事務局	医療観察法関連職種研修会	WEB	6/3	4
日総研	定着PNS運営トラブル解消&定着の極意	東京	6/4	1
日本精神科看護協会 神奈川県支部	倫理コンサルテーション	県内	11/15	1
厚生労働省 国立病院機構	指定入院医療機関従事者研修会 (初級・上級)	WEB	10/13～14	1
	指定医療観察法MDT研修	WEB	9/2	1
日本精神科看護協会	第29回日本精神科看護専門学術集会(専門学会)	島根	11/19～20	1
日本精神科救急学会	第30回日本精神科救急学会学術総会	埼玉	9/30～10/1	1
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会	県内	6/6～9/8	1
	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	県内	10/6～3/10	1
横浜市立大学	神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会	県内	8/1～11/25	1
昭和大学	神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会	県内	8/22～12/19	1
湘南医療大学 看護キャリア開発コアセンター	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	県内	6/2～7/15	1
合計				44名

令和4年度 講師派遣等実績

1. 講師派遣等実績

氏名	科目名	派遣先
大江久美子	精神看護方法論Ⅱ 6時間	JCHO 横浜中央病院付属看護専門学校
鈴木恵美子	精神看護方法論Ⅱ 6時間	
山田 直美	精神看護方法論Ⅱ 6時間	
阿部 由香	精神看護方法論Ⅰ 16時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第一看護学科
高坂 彰	精神看護方法論Ⅰ 16時間	
白石美由紀	精神看護学Ⅱ 12時間	横浜市医師会聖灯看護専門学校 第一看護学科
佐藤 泰幸	精神看護学Ⅱ 12時間	
山口いずみ	保健医療福祉論Ⅰ 保健医療システムjにおける看護の役割について	神奈川県立保健福祉大学
樋口 美佳	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
樋口 美佳	認定看護管理者教育課程セカンドレベル フォローアップ研修	
安江 佳子	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	
白石美由紀	教員・教育担当者養成課程 再構成演習	
佐藤 泰幸	教員・教育担当者養成課程 再構成演習	
白石美由紀	看護実習指導者講習会 再構成演習	
和田 祐子	看護実習指導者講習会 再構成演習	
鈴木恵美子	看護実習指導者講習会 再構成演習	
松木洋太郎	令和4年度精神科看護基本療養費算定要件研修会	公益社団法人神奈川県看護協会
細川さやか	令和4年度精神科看護基本療養費算定要件研修会	
佐藤 孝滋	第8回反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）講習会	公益社団法人日本精神神経学会 ECT・rTMS等検討委員会
白石美由紀	県立精神医療センターの概要・精神医療について	横浜市栄区精神障害者家族会 さかえ会
小島 亮子	薬物依存症について	芹が谷地域ケアプラザ
黒川由美子	薬物乱用防止教室（神奈川県薬物乱用対策推進事業）	川崎市立中学校
田中 京子	薬物乱用防止教室（神奈川県薬物乱用対策推進事業）	平塚市立金日中学校

2. 執筆

掲載先	内容	氏名
神奈川県立保健福祉大学誌	臨地実習において看護学生の自己評価に対して個別に支援を要するときの看護教員の関わり	相場 百合

3. 学会発表等

第29回 日本精神科看護専門学術集会	精神科救急病棟において 信頼障害という観点で捉えた患者の心境の変化	浜口 直樹
第20回 日本看護技術学会学術集会	看護学生のボディメカニクス・ノーリフティグケアの原則に関する認識の実態調査	齊藤あかり

4. 見学・実習（受け入れ）

項 目	対 象 者	実 人 数	延べ人数
臨床実習	看護学生	305	2,322

※詳細は 35 ページ参照

項 目	対 象 者	人 数	実 施 月
病院見学会	看護学生・看護師	10	2022年 8 月 9 月 12 月
インターンシップ	看護学生・看護師	26	2022年 3 月

令和4年度 看護師等実習生受入実績 神奈川県立精神医療センター

学校名	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			学校別年間実習生数 実習日数(日)	実習日数(日)	実習生数																															
	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21				28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27																	
上段:各学校の希望日程・人数 下段:実習日数	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	47	47	314																	
県立保健福祉大学	人数	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	7	8	8	8	6	5	5	5	5	7	8	8	8	6	6	7	6	8	7	5	5	5	5	2	4	2	5	2	1	1	4	1	55	55	444																
県立よこはま看護専門学校	人数	5	5	5	5	10	10	10	10	5	5	5	5	5	5	5	5	11	10	10	10	10	5	5	5	5	11	11	11	11	11	11	5	5	5	5	4	5	4	5	4	15	15	15	15	4	4	4	58	58	180													
県立平塚看護専門学校	人数	9	9	9	9	4	4	4	4	8	8	8	8	5	5	5	5	8	9	9	9	9	5	5	5	5	8	9	9	9	9	9	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	43	43	390													
県立衛生看護専門学校	人数	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	18	18	148													
横浜市立大学	人数																																																	108	108	10												
国際医療福祉大学 (ダイヤ)	人数																																																	5	5	10												
神奈川県立短期大学部	人数	8	8	8	8	4	4	4	4	7	7	7	7	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	30	30	240									
横浜市医師会聖灯看護専門学校	人数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	12	12	96								
横浜市医師会聖灯看護専門学校 (ダイヤ)	人数	9	9	9	9	2	2	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	9	9	18						
横浜市病院協会看護専門学校	人数	10	10	10	10	4	4	4	4	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	33	33	260					
横浜中央病院附属看護専門学校	人数																																																						11	11	88							
東京衛生学園	人数																																																						10	10	20							
国際医療看護福祉大学	人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4					
日本医療学園附属東亜看護学院	人数																																																							6	6	12						
福岡保健学院福岡看護専門学校	人数																																																							0	0	0						
合計人数	0	28	28	13	24	16	2	19	24	16	17	17	8	0	0	0	7	17	20	14	9	22	27	18	12	16	16	31	21	9	15	23	24	18	0	0	9	15	3	4	0	16	15	15	305	305	2332																	
病種別(主な診療科目)	病床数	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	400	400	4000																
病種別(実習生)	実習生数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	45	45	400			
病種別(実習生)	実習生数	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	47	47	397		
病種別(実習生)	実習生数	5	5	5	5	4	4	4	4	5	5	5	5	0	0	0	0	0	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	42	42	334	
病種別(実習生)	実習生数	4	4	4	4	5	5	5	5	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	36	36	294	
病種別(実習生)	実習生数	2	2	2	2	2	2	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	39	39	337	
病種別(実習生)	実習生数	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	25	198	
病種別(実習生)	実習生数	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	39	39	308	
病種別(実習生)	実習生数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	18	18	36
実習生数	実習生数	0	28	28	13	24	16	2	19	24	16	17	17	8	0	0	7	17	20	14	9	22	27	18	12	16	16	31	21	9	15	23	24	18	0	0	9	15	3	4	0	16	15	15	305	305	2332																	
実習生数	実習生数	0	117	126	42	110	78	4	84	104	84	104	84	32	0	0	28	68	73	45	27	105	109	72	82	80	108	101	18	80	80	104	36	0	0	36	24	6	8	0	60	60	80	301	301	2286																		

(2) 作業療法 (OT)

当院の作業療法は、安心していただける居場所の提供を基本に、参加患者の目標を意識しながら回復段階に応じた活動プログラムを用いて治療に当たっている。各病棟作業療法と1階療法エリアでの作業療法プログラム実施に加え、集団プログラムへの参加が困難な方や、生活および身体機能の評価や訓練が必要な方に対して個別の関わりも行っている。

作業療法科の人員構成は、作業療法士8名（内2名が医療観察法病棟の専従）である。2人で1つの病棟を担当する病棟担当制をとり、作業療法士1人あたり2～3病棟を担当している。『園芸』と『音楽療法』に関しては、外部講師と共にプログラムを実施し、より参加者のニーズにあわせたプログラムを提供している。

令和4年度はコロナ禍の影響で減少した実人員が徐々に増加してきた。特に入院期間短縮により継続者が減少し新規が増加した。

プログラムに関しては、不定期で行っていた『特別プログラム』を月1回継続実施した。また感染対策を徹底し『特別プログラム』でカラオケを再開した。

なお、管理料に含まれているため4B病棟（思春期病棟）および医療観察法病棟では精神科作業療法を算定していないが、参考値として以下のデータには組み込んでいる。

(ア) 患者受け入れ状況

a OT実施人員

(単位：人)

年度	実 人 員					
	新 規		継 続		計	
	男	女	男	女	男	女
R4	696		93		789	
	281	415	44	49	325	464
R3	611		108		719	
	252	359	57	51	309	410
対前年度比 (%)	113.9		86.1		109.7	
	111.5	115.5	77.1	96.0	105.1	113.1

b 患者別受け入れ状況

年度	区分	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	計
		症状性を含む器質性精神障害	精神作用物質使用による精神および行動の障害	統合失調症	気分(感情)障害	神経症性障害	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	成人の人格および行動の障害	精神遅滞	心理的発達の障害	特定不能の精神障害	てんかん	
R4		12	157	263	183	83	8	35	13	24	10	1	789
R3		5	149	255	171	75	5	26	10	12	11	0	719
対前年度比 (%)		240.0	105.3	103.1	107.0	110.6	160.0	134.6	130.0	200.0	90.9	-	109.7

c 年齢別受け入れ状況

年度	区分	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計	平均年齢
R4		77	138	100	122	149	203	789	44.8
R3		73	109	95	134	152	156	719	44.7
対前年度比 (%)		105.4	126.6	105.2	91.0	98.0	130.1	109.7	

(イ) 転 帰

区分 年度	継続	終 了											中止	計	
		退院										転院			その他
		通所先					帰来先								
		デイ・ケア	作業所	自助グループ	就労・復学・復職	その他	家庭復帰	単身生活	生活訓練施設	グループホーム	施設				
R4	93	27	9	1	6	4	386	108	25	49	9	52	2	1	772
R3	108	14	1	0	1	0	318	63	14	40	3	40	0	2	604
対前年度比 (%)	86.1	192.8	900	-	600	-	121.3	171.4	178.5	122.5	300	130	-	50.0	127.8

(ウ) プログラムの内容および実施状況

プログラム名	参加延人員 (人)	内 容
2A 病棟OT	1,370	体操、嚙下体操、創作活動、音楽療法などの集団活動を週2回実施。
2B 病棟OT	694	『ボディメンテ』（ストレッチ、サーキット・トレーニング等）『ホビー』（プリントや簡単な創作）を各1回、週2回実施。
3A 病棟OT	1426	週2回軽体操と認知トレーニング、作品作り、音楽プログラムなどを行う。他に月2回退院準備プログラムを実施。
3B 病棟OT	590	『アート』（作品作り）、『さきトレ』（運動プログラム）、『リラクゼーション』を各1回、週3回実施。
4A 病棟OT	1,028	作品作りや認知機能トレーニング、音楽の集い、書道・俳句、生活チェックなどを行う。週2回実施。
4B 病棟OT	488	パラレルな場での作品作りを週1回とグループ活動を隔週で実施。
5A 病棟OT	347	『あさいち』（プリントや簡単な創作）と『リフレッシュタイム』（卓球やリラクゼーション）を各1回、週2回実施。
5B 病棟OT	740	『ごごいち』（塗り絵などのプリント）と『リフレッシュタイム』（卓球やリラクゼーション）を各1回、週2回実施。オープン形式の疾病教育『知っトク講座』を3クール実施している。
フリースペースB	374	ネット手芸、刺繍、編み物、認知機能トレーニングなど机上作業中心。
フリースペースA	471	種目はフリースペースBと同様であるが、より援助が必要な対象者が参加。
のんびりスペース	241	落ち着いた時間を他者と共有することを目的としたプログラム。
ほのぼの	83	高齢者を対象としたプログラムで月2～3回実施。椅子での簡単なストレッチや筋トレ、ゲーム感覚の認知トレーニングを行う。
趣味空間ふらっと	489	他者と時間を共有し、ゲームや音楽鑑賞など楽しむことを目的としたプログラム。
スポーツ	89	バドミントン、バスケットボール、バランスボール、フラフープなど実施したい種目を体育館で行う。
卓球	196	手軽な室内スポーツである卓球を行う場。
園芸	133	花や野菜類の栽培、収穫し調理を実施するグループ活動。（月2回外部講師）
ド・レ・ミ♪	78	音楽療法士の外部講師と共に音楽プログラムを月1回実施。
特別プログラム	138	カラオケ、音楽の集いを実施。全病棟を参加対象としたプログラムで月1回実施。
KA・RA・DA（からだ）	183	座位でのストレッチやリズム運動、ボール体操、サーキット・トレーニングなどの運動。
個別OT	258	患者に合わせて作品作りや身体機能・認知機能訓練などを実施。
面接	176	インテークや情報収集、再評価等の面接を実施。
計	9,593	
医療観察法病棟	2,374	『ものづくり』『ガーデニング』『からだづくり』『音楽プログラム』を週1回実施。他にIADL評価や創作などの個別OT、多職種での目的別プログラムを実施。

(3) デイ・ケア療法

当センターのデイケアは、外来患者を対象に昭和57年6月からの試行を経て、昭和61年4月に精神科デイケア療法大規模適合施設の承認を受け治療を開始した。デイケアの目的は疾病の自己管理能力を獲得し、日常生活能力・社会生活能力の改善を図ることで、利用者の社会復帰を実現することである。

デイケア科の主な業務としてはプログラムの運営、個別面談・家族面談、電話相談、ケースワーク、カンファレンスへの参加などがあげられる。その他の業務として院内においては他部門との連携や各種会議の参加、学生実習の受け入れ、認知症対策・普及啓発事業、院外においては地域の医療・保健・福祉機関との連携、芹が谷地域ケアプラザとの業務連携、港南区自立支援協議会、デイケア連絡会への参加など多岐にわたる。以上のような業務に医師2名、看護師2名、作業療法士3名、精神保健福祉士1名、臨床心理技術者2名のチームで協力しながら取り組んでいる。一部のプログラム実施にあたっては、他部門や各種専門知識・技術を有する外部講師の協力を仰いでいる。

デイケアでは統合失調症の方を主たる対象としたプログラムの他に、依存症の方を対象としたプログラム(SMARPP・SARPP・GRIP・mini scop)、認知症の方やその予防を目指す方を対象としたもの忘れリハ(コグニサイズ)を行っている。令和4年度はギャンブル依存の方を対象にしたプログラム(GRIP)が加わった。その一方で、アルコール依存の方を対象に行っていたSARPPは参加者が減少したため、終了した。

今後は通過型のデイケアとして、個別のケースワークの強化、さらに多様化する疾患に対する支援や治療プログラムの提供を目指している。

ア 精神科デイ・ケア

(ア) 月別参加者数

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (右：月平均)	
在籍者数		183	182	182	181	181	177	174	183	187	184	180	181	2,175	181
(うち入院)		8	12	11	15	16	13	15	15	9	10	13	12	149	12
(うち医療観察者法通院者)		5	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	3	43	4
延数	参加者延数	494	458	529	453	476	467	458	501	503	438	453	495	5,725	477
	(うち入院)	4	0	2	11	4	0	6	5	0	1	1	7	41	3
	(うち医療観察者法通院者)	15	5	7	5	3	5	3	2	4	4	4	2	59	5
数	ショート延数	272	263	304	258	252	261	297	321	305	272	325	360	3,490	291
	(うち入院)	4	0	2	8	1	0	5	4	0	1	1	5	31	3
平均	参加者一日平均	25	24	24	23	22	23	23	25	25	23	24	23	282.982	24
	(うちショート)	14	14	14	13	11	13	15	16	15	14	17	16	172.6	14
実施日数		20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243	20

(イ) 地域別参加者数

(単位：人)

地域別 年度	横 浜 市																横須賀市	鎌倉市	川崎市	相模原市	藤沢市	その他	合計			
	鶴見区	西区	中区	南区	港南区	保土ヶ谷区	旭区	磯子区	港北区	戸塚区	栄区	泉区	神奈川区	緑区	金沢区	都筑区								瀬谷区	青葉区	小計
R4	7	5	5	37	58	15	8	11	2	38	9	6	3	1	4	0	1	3	213	2	5	1	3	7	6	237
R3	6	5	4	37	57	18	8	18	3	38	9	7	5	2	9	0	1	3	230	1	4	2	0	3	8	248

(ウ) 年齢・病名別参加者数

(単位：人)

病名	19歳以下			20～29歳以下			30～39歳以下			40～49歳以下			50歳以上			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
中毒性精神障害 (F1)	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	4	6	2	1	3	5	6	11
統合失調症 (F2)	0	2	2	13	10	23	16	14	30	21	15	36	22	16	38	72	57	129
気分(感情)障害 (F3)	0	0	0	1	10	11	2	4	6	4	0	4	8	2	10	15	16	31
神経症性障害 (F4)	0	1	1	2	11	13	0	4	4	2	2	4	0	2	2	4	20	24
人格及び行動障害 (F6)	0	0	0	2	4	6	1	2	3	0	0	0	1	3	4	4	9	13
精神遅滞 (F7)	0	0	0	2	1	3	1	3	4	0	0	0	0	0	0	3	4	7
その他	0	0	0	3	3	6	1	7	8	0	2	2	4	2	6	8	14	22
計	0	3	3	24	40	64	21	34	55	29	23	52	37	26	63	111	126	237

(エ) プログラム統計

(単位：件)

プログラム		小計	内 容 ・ 目 的
神 集 療 団 法 精	全体ミーティング	0	DC運営に関わる議題についてメンバー・スタッフで話し合う。
	グループミーティング(忘年会委員会)	0	行事ごとに委員会を作り、企画・立案・運営をメンバー・スタッフで実施していく。
	小 計	0	
訓 職 練 業 前	作業	0	外部からの請負作業(やまゆり発送など)を通して、就労・作業所への準備性を高めていく。
	係の仕事	0	分担された係を体験していく中で就労・作業所などへの心構えや責任感を養っていく。
	社会復帰プラン	0	就労もしくは作業所などを指すために準備性を高める。
	ねくすとドリーム	48	就労もしくは就労移行支援事業所、作業所などを指すために準備性を高める。
	小 計	48	
創 作 活 動	創作	100	創造性を養い、情緒の表出を図るため、絵画、手工芸、文芸、共同制作等を行う。
	ものづくり	49	様々な手芸品に挑戦する中で創る楽しさを体験していく。達成感を得る。
	小 計	149	
活 日 指 常 導 生	料理・料理の買い物・話し合い	0	能力・目的別にグループ分けをし、調理に取り組む。
	生活クラブ	49	日常生活に必要な知識・技能の習得を図る。参加者の自立を促す。
	小 計	49	
活 ク 動 ラ ブ	グループ活動	0	担当スタッフ別のグループとなり、それぞれグループ活動に取り組む。
	クラブ活動	0	同好のメンバーが集まり、自主的にグループ運営を行なう。
	小 計	0	
運 動 療 法	スポーツ	50	チームプレーを通して協調性を養い、体力作り、身体を動かす心地よさを体験すること等を目的とする。
	スポーツ大会(含む、準備、交流試合)	0	プログラムで練習した競技の大会へ参加する。
	体力測定	0	現在の体力を把握し、自己の身体への意識を高める。
	のんびりストレッチ	26	スタッフの動きにあわせて、その場で出来るストレッチを行う。
	レクスポ	47	ベタンク、ラインナップなど軽い運動をする。
	フィットネス	50	ストレッチやサーキットトレーニングを行う。
	小 計	173	
音 法 楽 療	コーラス	0	外部講師の指導により、合唱の練習をし年数回成果を発表。
	ドラム	0	外部講師の指導により、ドラムを中心とした打楽器を皆で演奏をする。
	音遊び	47	外部講師の指導により、リズム遊びやハンドベル演奏を行う。
	小 計	47	
認 知 行 動 療 法 ・ 心 理 教 育 他	健康・栄養講座(健診含む)	0	身体的な自己管理に関心を持つことを目的とし健康に関する講義を受ける。
	SST	15	対人関係の改善を目的に、課題の場面を演じながら訓練を行う。
	統合失調療法	12	統合失調症の症状や対処法などの知識を身に付ける。
	認知行動療法	0	病気の症状についての対処法を身に付けるための心理教育。
	福祉講座	0	精神障害者の動向や福祉制度の状況などを知る機会とする。
	WRAP	15	自分が元気でいるための計画を立て、それを実践していく。
	健康クラブ	0	健康上の身体的問題を認識し、自己管理をしていく。
	メタ認知	4	認知の偏りを学ぶ。
	NEAR-K	28	パソコンを使ってゲームを行いながら、認知機能改善・生活の質の向上を目指す。
健康習慣プログラム	47	健康について考えたり、運動を行う。	
	小 計	121	
レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動	パーティー、打上げ(含む、準備)	0	忘年会、歓送迎会等の準備、実施。
	外出(含む、準備)	0	社会性を養い、視野を広げることを目的とする。
	パザー、DCコンサート・港南ネット祭り・ デイケア作品展(含む、準備)	2	入院患者・職員との交流、地域福祉施設との交流を図るために参加。
	かき氷大会・すいか割り(含む準備)	0	夏の風物詩としての行事を行い楽しむ。
	施設見学(含む準備)	0	地域の通所施設等を見学し、デイケア退所後の通所先のイメージをもつ。
	小 計	2	

プログラム		小計	内 容 ・ 目 的
そ の 他	パソコン	47	外部講師等の指導により、パソコンの操作を学ぶ。
	書 道	11	外部講師の指導により、各自好きな言葉を書き、添削を受ける。年数回成果を発表。
	茶 道	0	外部講師の指導により、お茶のたて方、飲み方を学ぶ。
	華 道	10	外部講師の指導により、お花のいけ方を学ぶ。
	新人オリエンテーション	0	新入所者に対し、メンバーがデイケアの説明を行う。
	アロマセラピー	0	外部講師の指導により、いろいろな香りを楽しみながら、リラックスする方法を学ぶ。
	植物を育てる	0	花や野菜などの植物を育てることで季節を得ながら、達成感を得る。
	メイクアップ講座	0	外部講師の指導により、メイクの方法を学び整容への関心を高める。
	頭のトレーニング	0	クイズ・パズル等を行うことで頭のリラックス、及び活性化を図る。
	英会話	0	外部講師の指導により、英会話について学ぶ。
	スモールグループ	0	大人数のプログラムが苦手な方が、小人数で落ち着いた環境で課題に取り組むことを目的とする。
	サロンせりがや	0	各自が希望する活動や話をして過ごす。
	家族会	15	家族面接の実施、福祉講座への参加呼びかけなど行う。
	せりがや菜園・工房	49	花や野菜などの植物を育てたり、軽作業を行う。
	個別活動	196	興味や関心に応じて個々に活動する。
	新人グループ	71	利用開始間もない方へのオリエンテーションを行う。
サークル活動	50	同じ興味・関心の方と活動を共にする。	
小 計		449	
合 計		1,038	

(オ) 転 帰

(単位：人)

性別	転 帰														計
	就労	就労移行支援	就労継続支援	支援センター等	就学	家庭内適応	転院等	入院	不適応	死亡	中断	その他	DC延長	6ヶ月未満	
男	6	2	7	1	0	1	4	1	0	0	9	2	56	17	106
女	1	1	2	0	0	3	5	2	0	0	21	6	59	20	120
計	7	3	9	1	0	4	9	3	0	0	30	8	115	37	226

(カ) 家 族 会

開催月	テ ー マ	開催数	参加者数
10-11月	家族面談	2回	27名
合 計		2回	27名

ウ 依存症デイ・ケア

(ア) SMARPP

(単位：人)

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
	(右：月平均)													
在籍者数	6	7	8	8	5	4	4	3	3	4	4	4	60	5.0
(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
参加者延数	5	11	9	4	5	1	1	3	4	6	5	4	58	4.8
(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均													
	1.7	2.8	2.3	1.3	1.3	1.0	1.0	1.0	2.0	1.5	1.3	1.3	18	1.5
実施日数	3	4	4	3	4	1	1	3	2	4	4	3	36	3.0

(イ) SARPP

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	計	
							(右：月平均)	
在籍者数		3	3	3	6	6	21	1.8
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0.0
延数	参加者延数	8	5	10	11	7	41	3.4
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	2.0	1.7	2.0	3.7	2.3	12	1.0
実施日数		4	3	5	3	3	18	1.5

(ウ) mini-scop

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
														(右：月平均)	
在籍者数		-	3	3	3	-	-	3	3	3	-	-	-	18	3.0
(うち医療観察者法通院者)		-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	-	0	0.0
延数	参加者延数	-	12	12	6	-	-	9	12	8	-	-	-	59	9.8
	(うち医療観察者法通院者)	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	-	0	0.0
平均	参加者一日平均	-	3.0	3.0	3.0	-	-	3.0	3.0	2.7	-	-	-	18	2.9
実施日数		-	4	4	2	-	-	3	4	3	-	-	-	20	3.3

(エ) GRIP

(単位：人)

月 別		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
									(右：月平均)	
在籍者数		4	5	5	7	7	7	6	41	3.4
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延数	参加者延数	9	9	3	10	7	8	12	58	4.8
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	2.3	2.3	1.0	2.5	1.8	2.7	2.4	15	1.2
実施日数		4	4	3	4	4	3	5	27	2.3

ウ もの忘れリハ

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
														(右：月平均)	
在籍者数		5	5	6	6	7	7	7	7	7	7	7	8	79	6.6
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延数	参加者延数	4	7	9	10	8	12	11	12	12	11	11	20	127	12.7
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均	参加者一日平均	1.0	2.3	1.8	2.5	2.7	2.4	2.8	4.0	3.0	2.8	3.7	4.0	32.9	3.3
実施日数		4	3	5	4	3	5	4	3	4	4	3	5	47	4.7

エ 個別支援

(ア) 相談件数

(単位：人)

手段	本人	家族	退所者	その他関係機関
電話	200	17	7	113
面接	642	28	10	66
見学	-	-	-	100

(イ) 訪問件数

(単位：人)

職場、福祉施設など	32
-----------	----

(ウ) カンファレンス（医療観察法含む）

(単位：人)

科内	科外
2,285	35

オ 教育

(単位：人)

	医療関係者	福祉関係者	行政関係者	その他	合計
研修	112	6	1	0	119
見学	0	0	0	0	0

(4) 検査業務

ア 心理業務

コメディカル部心理科には常勤職員6名、契約職員1名、計7名の心理士が在籍し、うち常勤2名は医療観察法病棟、常勤1名は思春期病棟に専従で配属、契約1名は主に外来の検査等を担当、常勤1名は依存症病棟に配属されている。外来及びその他の病棟には窓口として担当心理士がそれぞれ配属されている。

主な業務は心理検査、心理療法（集団精神療法、個別面接等）、医療観察法業務である。心理業務のうち心理検査は、精神医学的診断を補うこと、パーソナリティの理解を深めること等を目的とし、必要に応じて検査を組み合わせ実施した。心理療法は主に外来患者を対象とし、一対一の心理面接、集団療法などの形態で認知行動療法を中心とした技法に基づき、必要な心理的ケアを提供するものである。主治医から依頼のあった患者に対し、アセスメント（心理検査・アセスメント面接等）に基づいて治療目標を設定し、必要に応じて主治医との連携をとりつつ継続的な関わりを持った。尚、心理面接は令和2年6月より有料化している。面接対象患者の診断は統合失調症、気分障害、人格障害等であった。集団療法は、多職種と協力し、病棟にて疾病教育や座談会等を中心に実施した。救急病棟においては作業療法科、薬剤科と協力し、全3回の疾病教育を年間2クール行った。

専門病棟については以下の通りである。

依存症病棟では、木曜会のプログラムを担当した。また必要時に主治医の判断によって心理検査を導入した。さらに依存症部門で実施しているプログラム等に関して、研修や研究を行った（下記令和4年度研究・研修実績参照）。

ストレスケア病棟では、心理検査ならびに心理面接、心理療法（看護スタッフが行うCBTプログラム、SSTプログラムの補助）を行った。また病棟におけるカンファレンスにも参加し、協働を図った。他に、臨床研究（rTMS）入院において、抑うつ症状評価の為の心理検査を実施した。

思春期病棟では、他職種と協力しながら各種プログラムを企画運営し、必要時に心理検査等を実施した他、病棟カンファレンス等にも参加した。

医療観察法病棟においては、各種プログラムの企画運営、心理検査・心理面接の実施、対象者の外出・外泊への付き添い、MDT会議、CPA会議、治療評価会議等多職種チームの会議等に参加した。

外来においては、医師から依頼のあった心理検査及び心理面接を実施し、その結果を報告した。必要に応じて被験者に対して心理検査結果のフィードバック（令和元年10月より有料化）も行った。その他、デイケアでの認知行動療法を他職種とともに実施。医療観察法通院処遇対象者に対しては、治療評価会議、チーム会議、ケア会議に参加した他、必要に応じて個別面接を行った。平成29年度より開設されたものわすれ外来では、認知機能に関する認知機能検査を実施し、鑑別診断の一助として、現状の認知機能について所見を作成した。また令和2年4月より開設されたゲーム依存外来では、知的能力、人格、自閉傾向の心理検査を実施し、査定の一助として所見を作成した。

また、臨床心理士受験資格に関する指定大学院より修士課程在学中の研修生1名を平成28年度から、週1日受け入れを行っているが、COVID-19感染症の流行に伴い、令和4年度の受け入れは見送られた。公認心理師受験資格に関する大学在学中の学生30名の病院見学と講義、及び8日間の実習研修生を受け入れた。

その他、院内外において以下のような研究・研修を担当した。

令和4年度研究・研修実績

- ・神奈川県依存症拠点事業「依存症セミナー」
- ・認知症講演会
- ・令和4年度医療観察法指定通院医療機関従事者研修会 講師（8/23, 12/22）
- ・医療観察法心理士ネットワーク研究会 事例発表（11/14）
- ・センター研究発表会「内省を動機づける一内省準備プログラムの作成と効果の検討一」

今後は心理職が公認心理師として国家資格化されたことに伴い、さらなる心理的援助の質の向上および拡充を図ると共に、養成にも寄与していく予定である。

(ア) 心理検査（令和4年度）

検 査 名		外来 (ものわすれ,ゲーム依存含)	入院（医観法含）	計
知能検査	WAIS- IV	148	83	224
	WAIS- III	1	1	1
	WISC- IV	48	18	66
	田中ビネー	0	0	0
人格検査	ロールシャッハ人格診断検査	41	31	72
	SCT 文章完成法	122	58	180
	描画検査（バウムテスト等）	153	69	222
	P-F スタディ	95	42	137
	MMPI	5	6	11
	Y-G	1	1	2
	TEG	3	0	3
認知機能検査	HDS-R,MMSE	88	124	212
	ADAS	32	0	32
	リバーミード	31	0	31
	Clock Drawing	32	1	33
	GDS	62	0	62
	COGNISTAT	7	30	37
	WMS-R	0	0	0
その他	HAM-D	14	38	52
	AQ	114	26	140
	A-ASD	0	0	0
	CES-D	1	36	37
	その他	63	67	130
計 (実人数)	1,061 (341)	631	1,692	

(イ) 心理療法 (令和4年度)

	外来 (リワーク・依存症除)	入院	救急病棟	ストレスケア	依存症	思春期	医療観察法病棟
心理面接等	195(24)	52(5)					674(34)
集団プログラム等	—		5	62	44	94	106

※計欄 () は実人数を示す。
 ※外来移行後分含む。

(ウ) その他 (令和4年度)

医療観察法 (入院病棟) 多職種チーム会議への参加	279
医療観察法 (入院病棟) ケア会議への参加	91
医療観察法 (通院処遇) 多職種チーム会議への参加	36
医療観察法 (通院処遇) ケア会議への参加	37

イ 放射線業務

常勤1名、非常勤1名の2名の放射線技師で業務を行っている。

一般撮影 (ポータブル撮影含む)、パントモ撮影、CT検査、MRI検査、PDIのExport・Inport業務を行っている。毎日の業務は1人で行うことが多い。

前年度比をみると、一般撮影部門においては、同様の件数であったが、その他の検査、CT・MRI検査においては、昨年度より減であった。CT検査においては、新型コロナウイルス感染症が少なくなり、胸部の撮影が少なくなった。MRI検査は、もの忘れ外来の初診の少なさが影響していると考えられる。

PDI (Portable Data for Imaging、医用画像情報を含んだ可搬型媒体) 業務は、前年度より減となった。

(ア) 一般撮影業務件数 (人数及び撮影回数)

月	頸部				胸部				腹部				四肢				その他				合計							
	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数						
4月	3	3	4	103	4	104	3	117	3	117					3	8					7	228	7	230				
5月	4	4	4	111	1	112	1	125	1	125		1		2	3	10					2	244	2	233				
6月	1	1		120		120	1	141	1	141											1	262	1	262				
7月	2	2	2	92	4	98	7	110	7	110					3	9		1	2		11	208	11	218				
8月	2	2	2	80	10	83	7	92	8	92					2	4					17	178	18	181				
9月	3	3	3	92	8	97	8	102	8	102					2	4					12	201	12	208				
10月	3	4	7	91	3	95	3	105	3	105					2	4					15	201	18	208				
11月	8		8	97	4	99	8	103	8	103		1		2	2	4		3	7	10	202	12	211					
12月			3	99	3	98	4	108	4	108					2	4		1	4	7	209	7	214					
13月	2	2	2	84	2	84		93		93					4	12		1	3	2	184	2	184					
2月	2	2	2	93	4	95	4	112	4	112				2	4			5	8	10	212	12	215					
3月	2	2	2	102	3	102	2	127	2	127		2			1	4					7	234	7	239				
合計	0	32	0	33	20	1133	31	1175	49	1335	32	1335	0	4	0	9	2	24	4	80	0	11	0	22	101	2,359	107	2,933
構成比(%)	0.0	1.2	0.0	1.2	1.9	43.2	1.9	42.9	1.8	50.2	1.9	48.7	0.0	0.2	0.0	0.3	0.1	0.9	0.1	2.2	0.0	0.4	0.0	0.8	3.8	98.2	3.9	98.1

(イ) CT検査業務件数

月	部位	頭 部	胸 部	腹 部	椎 骨	四肢骨	その他	合計
R4.4		96	24	36				156
5		97	27	51	1			176
6		103	28	46		2		179
7		106	36	48			1	191
8		81	35	45				161
9		92	18	32				142
10		90	18	38				146
11		79	25	39	1		1	145
12		92	26	52				170
R5.1		84	25	39		1		149
2		74	19	35		1		129
3		87	18	37	1	1		144
合 計		1,081	299	498	3	5	2	1,888
構成比 (%)		57.3	15.8	26.4	0.2	0.3	0.1	100.0

(ウ) MRI検査業務件数

月	部位	頭 部	胸 部	腹 部	椎 骨	四肢骨	その他	合計
R4.4		14						14
5		17						17
6		22						22
7		16					1	17
8		10						10
9		7			1			8
10		17						17
11		5			1			6
12		20						20
R5.1		12			1			13
2		16						16
3		10			1			11
合 計		166	0	0	4	0	1	171
構成比 (%)		8.8	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	100.0

(エ) PDI 依頼件数

月	種別	Export	Import	合計
R4.4		5	7	12
5		5	4	9
6		11	7	18
7		8	5	13
8		11	7	18
9		4	1	5
10		11	4	15
11		12	3	15
12		12	8	20
R5.1		9	2	11
2		13	4	17
3		15	7	22
合 計		116	59	175

(オ) 一般撮影業務件数推移

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年度比(%)
延べ人数	1,936	1,796	1,725	1,732	1,806	1,834	2,373	2,556	2,549	2,771	3,141	2,490	2,560	2,660	103.9
延べ回数	2,542	2,232	2,070	2,081	2,204	2,251	2,989	3,225	3,101	2,953	3,321	2,609	2,718	2,740	100.8

(カ) CT 検査業務件数推移

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年度比(%)
延べ人数	968	886	942	975	964	958	1,131	1,285	1,389	1,368	1,551	2,029	2,159	1,888	87.4

(キ) MRI 検査業務件数推移

	30年度	31年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年度比(%)
延べ人数	82	256	192	199	171	85.9

(ク) PDI 依頼件数推移

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年度比(%)
Export	77	82	70	171	122	127	149	116	77.9
Import	6	19	13	11	26	50	61	59	96.7

ウ 臨床検査業務

	院内処理件数		委託処理件数		合 計	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
一 般 検 査	17,062	18,022	49	50	17,111	18,072
血 液 検 査	30,940	27,399	30,627	29,842	61,567	57,241
生 化 学 的 検 査	57,641	48,253	99,110	96,816	156,751	145,069
内 分 泌 学 的 検 査	0	0	7,296	6,466	7,296	6,466
免 疫 学 的 検 査	2,201	1,979	8,713	7,781	10,914	9,760
病 理 学 的 検 査	0	0	0	0	0	0
微 生 物 学 的 検 査	0	0	227	225	227	225
生 理 機 能 検 査	1,830	1,729	0	0	1,830	1,729
計	109,674	97,382	146,022	141,180	255,696	238,562

(5) 福祉医療相談業務

福祉医療相談科は、本人・家族や地域関係機関等からの受診・入院相談窓口としての機能と、退院支援等のソーシャルワーク、退院後の治療継続や地域生活に関わる経済的問題、福祉制度・サービス・各種相談等に対応し、本人・家族との信頼関係構築に努め、地域との連携を重視した相談業務に取り組んでいる。

神奈川県精神科救急の中核的役割を担い、システムベッド16床を有しているため救急病棟に入院された本人・家族との面接や生活問題に関する調整をはじめ、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市担当課や後方支援病院との連絡調整に関わり、スムーズな退院に向けた調整を行っている。

医療保護入院者に対し退院後生活環境相談員の役割を果たすために、入院時点から本人及び家族に対して相談支援を行い、医療保護入院継続の妥当性を図るための「医療保護入院者退院支援委員会」を令和4年度は135件開催した。

長期入院者の退院促進にむけて地域連携・訪問看護科をはじめ多職種で定期的にカンファレンスを行い、地域定着に向けて関係機関とのネットワークを構築した結果、5年以上入院患者19名のうち6名、1年以上5年未満入院患者27名のうち、16名を退院に結びつけた。退院前訪問看護や訪問看護の外出同行も行き、関係機関との連携強化を目指し、地域移行定着事業への協力、区の各種ネットワーク会議等へも参加している。

依存症ではインテーク面接の他、多職種チームの一員としてSARPP、入院プログラムの一部、SCOP、薬物、アルコール家族会等のファシリテーターを担当している。依存症治療拠点機関として、「依存症ポータルサイト」の運営、依存症セミナー開催・普及啓発、モデル支援事業等に関わっている。

思春期病棟では、児童相談所や教育機関等の地域関係機関との連携構築を目指し、県立こども医療センターと医師を交えた多職種連絡会を定期開催し、過剰児への通院先移行や入院の受け入れ等、連携を強化している。

医療観察法の指定医療機関として鑑定入院、通院医療、入院医療に携わっている。医療観察法指定医療機関のソーシャルワーカーを中心としたかながわ司法精神医療福祉ネットワークにも継続的に参加している。入院処遇では週に1回の治療評価会議他、MDT会議、および3ヶ月に1回程度のCPA会議に参加、通院処遇では、外来・訪問看護・デイケアのスタッフを加え、多職種チーム（MDT）を編成し、月に1回のMDT会議と、3ヶ月に1回程度の地域ケア会議を実施している。福祉医療相談科に通院処遇の事務関係を担う医療観察担当者（事務職）を配置している。通院処遇対象者は、令和4年度は新規4名、累計では71名を受け入れており、これは全国的にみてもかなり多い受け入れ人数である。医療観察法指定通院医療機関従事者研修会では、全国各地のファシリテーターと連携を図り、研修企画に協力している。

権利擁護の視点から、神奈川県弁護士会による法律相談会を月1回定期的に開催している。利用希望者が確実に相談できるよう弁護士2名体制で最大4名の相談枠を設け、各病棟と連携しプライバシーに十分な配慮をしながら、希望者が安心して相談できる体制を整えている。

その他メディエーター研修のファシリテーターやもの忘れ外来に関する地域向けのイベントの企画、運営にも協力する等、地域関係機関からの研修や講義依頼にも対応し、精神科医療の普及啓発に努めている。

第59回全国自治体病院協議会精神科特別部会のコメディカル部会が2022年8月25日にオンラインで開催され、主催病院として企画、運営をはじめ、進行役を担い、全国のコメディカルスタッフに参加頂いた。

今年度から東京出入国在留管理局（横浜支局）の依頼により、在留外国人の受診調整を開始している。

ア ソーシャルワーク業務

(ア) 内容別相談件数

内 容	一般精神			依存症			医療観察			ストレス			思春期			認知症			その他			計			
	外来	入院	受診相談	外来	入院	受診相談	外来	入院	受診相談	外来	入院	受診相談	外来	入院	受診相談	外来	入院	受診相談	外来	入院	受診相談	外来	入院	受診相談	2022年度
受診援助	632	108	1,992	349	22	1,119	30	11	10	60	4	395	209	16	988	9	2	94	5	0	12	1,294	163	4,610	6,067
入院援助	300	250	1,192	168	45	461	24	61	35	262	17	299	169	96	398	1	2	2	1	6	7	925	477	2,394	3,796
退院援助	138	5,961	13	35	1,164	5	11	740	1	8	434	0	19	1,335	6	0	0	0	0	8	0	211	9,642	25	9,878
心理的情緒的援助	839	1,116	13	304	270	11	74	430	0	19	118	7	19	25	0	0	0	0	0	0	0	1,255	1,959	31	3,245
経済問題援助	190	669	7	61	248	3	42	458	0	7	49	1	5	11	1	0	0	0	0	2	0	305	1,437	12	1,754
福祉制度利用援助	1,796	2,646	28	986	1,685	35	209	1,481	2	73	574	8	338	630	8	4	2	1	0	1	0	3,406	7,019	82	10,507
家族問題援助	225	455	22	140	83	25	11	72	0	5	12	2	65	76	2	0	0	0	0	0	0	446	698	51	1,195
住宅問題援助	135	508	0	36	172	0	20	286	0	1	13	0	0	12	0	0	1	0	0	0	0	192	992	0	1,184
就労問題援助	85	25	0	10	4	0	9	49	0	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107	85	0	192
教育問題援助	2	5	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	44	55	1	0	0	0	0	0	0	52	66	1	119
権利擁護	35	428	1	1	11	0	10	291	0	0	3	0	0	7	0	0	0	0	1	0	0	47	740	1	788
退院請求・ 処遇改善請求	9	190	1	1	0	1	0	45	0	0	0	0	1	53	0	0	0	0	0	0	0	11	288	2	301
他医療機関との連携	733	1,093	418	321	280	253	16	181	1	32	66	36	37	23	66	3	1	3	2	2	1	1,144	1,646	778	3,568
その他	638	890	88	219	156	19	163	1,122	19	25	65	13	21	41	3	0	2	3	35	32	8	1,101	2,308	153	3,562
計	5,757	14,344	3,775	2,637	4,146	1,932	619	5,227	68	495	1,362	761	927	2,380	1,473	17	10	103	44	51	28	10,496	27,520	8,140	46,156

(イ) 実施方法別相談件数

内 容	2022年度				2021年度計
	外来	入院	受診相談	計	
面接	2,027	9,357	156	11,540	12,818
電話	7,577	15,322	7,825	30,724	32,984
外出	26	394	1	421	498
訪問	23	28	2	53	88
ケア会議	350	1,493	17	1,860	2,177
グループワーク	21	66	1	88	75
書類	308	579	107	994	831
その他	173	359	37	569	647
計	10,505	27,598	8,146	46,249	50,118

イ 地域連絡会議

県立病院機構メディアーター連絡協議会

会 議 名	場 所	実 施 日
県立病院機構メディアーター連絡協議会	機構本部等	4回/年

港南区地域生活支援会議

会 議 名	場 所	実 施 日
2022年度 港南区自立支援協議会	港南区役所	6回/年
2022年度 南区地域自立支援協議会	南区役所	8回/年

業務連絡会

会 議 名	場 所	実 施 日
令和4年度港南区精神保健福祉業務連絡会	港南区役所	2022年12月15日
令和4年度戸塚区精神保健福祉業務連絡会	戸塚区役所	2022年10月25日

こどものこころのケアネットワーク事業

会 議 名	場 所	実 施 日
第11回神奈川児童青年期精神科入院医療を考える会	ウィリング横浜	2023年3月11日

ウ 協議会、見学会、研修受け入れ、講師派遣等

協議会等

内 容	場 所	参 加 日
自治体病院協議会精神科特別部会研修会	Web開催	2022年8月24日～26日
精神科特別部会コメディカル部		2022年8月25日
第21回関東ブロックコメディカル会議	Web開催	中止
全国児童青年精神科医療施設協議会	Web開催	2023年2月23日～24日
神奈川県依存症治療拠点機関等連携会議	Web開催	2022年9月21日
2022年度横浜市依存症関連機関連携会	Web開催	2022年12月15日
薬物依存のある保護観察対象者等に対する地域支援連絡協議会	県域、相模原市： 横浜合同庁舎 横浜市、川崎市： 横浜市技能文化会館	2023年2月14日 県域、相模原市 2023年2月22日 横浜市、川崎市
医療観察法地域連絡協議会		中止

見学会・意見交換会

内 容	場 所	実 施 日
2022年度南部地域若者支援連絡会	よこはま南部ユース プラザ等	2022年6月29日 2023年3月23日

実習受け入れ

依 頼 校	人 数	実 施 日
神奈川県立保健福祉大学	2名	2022年7月8日～7月29日 2022年8月8日～9月26日
日本福祉大学	1名	2022年11月1日～11月18日
桜美林大学	1名	2023年2月6日～2月28日
日本女子大学	1名	2022年10月3日～10月20日

現任者の視察・研修受入れ

内 容	人 数	実 施 日
神奈川県精神保健福祉新任研修	10名	2022年7月26日
横浜市精神保健福祉研修	5名	2022年12月13日
社会復帰調整官実務実習	2名	2023年1月24日～27日

講師派遣

内 容	場 所	実 施 日
薬物依存対象者の引受人等会	横浜第2合同庁舎1階	2022年11月1日
精神医療と介護連携	神奈川県立 精神医療センター	2022年10月26日
2022年度児童福祉施設協議会 神奈川県心理士研修会	ハイブリット形式 神奈川県社会福祉センター	2022年12月7日
家族セミナー	RDP横浜	2023年3月19日
2022年度司法精神医療等人材養成研修 (指定通院)	不参加	2022年8月25日、12月22日
薬物乱用教室	川崎市立稲田中学校	2023年2月27日
「精神科病院における地域・多職種との連携 ～精神保健福祉士の入退院支援を通して～」の講義	在宅医療 トレーニングセンター 地域医療課	2022年9月30日 (2022年12月23日再配信)

学生現場訪問・オンライン見学

内 容	場 所	実 施 日
神奈川県立保健福祉大学「保健医療福祉論Ⅰ」 現場訪問	神奈川県立精神医療センター	2022年8月9日
神奈川県立保健福祉大学学生オンライン見学会	WEB開催	2022年12月8日

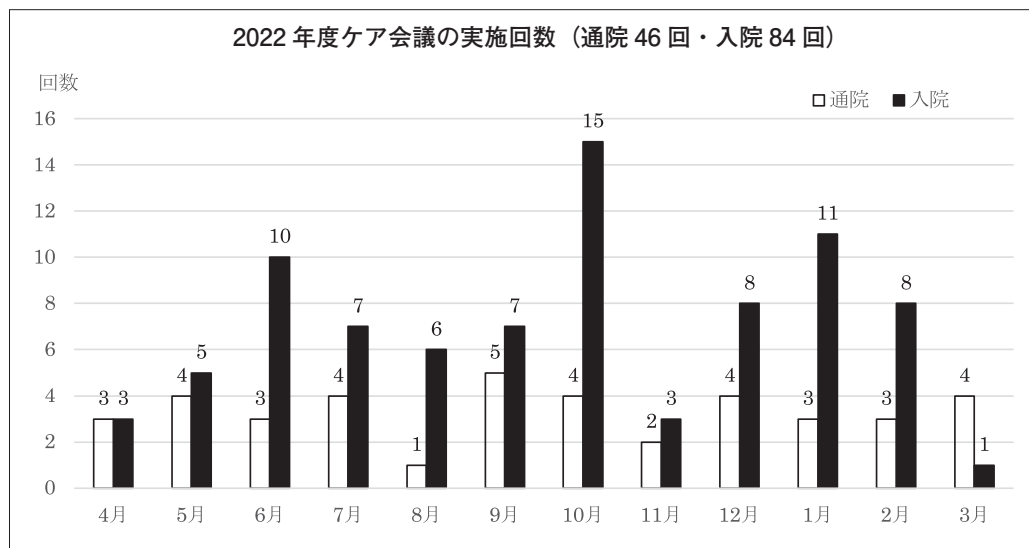
審査委員

内 容	場 所	実 施 日
こころの電話相談業務委託に関する審査会委員	神奈川県精神保健福祉センター	2023年3月3日

エ 医療観察法制度における取組み

対象者数

	2022年度新規対象者数	累計（H17年度より）
鑑定入院	3	54
入院医療	13	140
通院医療	4	71



連絡会

内 容	開催場所	実 施 日
かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議	Web開催	2022年9月9日
	Web開催	2023年3月24日

オ 神奈川県弁護士会による法律相談会

実績

回 数	月 日	利用者数
第1回	4/21	4名
第2回	5/19	1名
第3回	6/16	3名
第4回	7/21	4名
第5回	8/18	4名
第6回	9/15	4名
第7回	10/20	2名
第8回	11/17	4名
第9回	12/15	2名
第10回	1/19	2名
第11回	2/16	2名
第12回	3/16	4名

(6) 地域連携・訪問支援科業務

地域連携・訪問支援は、連携サポートセンターの1つである。

地域連携やベッドコントロールの専従が1名、訪問看護は専任の看護師4名が従事するほか、所属およびコ・メディカル、外来、病棟の職員等多職種が協働し訪問看護を行っている。

ア 訪問看護支援業務

訪問看護では、「みんなとつながる訪問看護」をテーマにシームレスな支援を行っている。私たちは対象となる精神疾患を抱えている人に対し、個人の尊重のみならず、社会とつながることによりその人らしさの回復を支援できるよう、多職種、または地域の訪問看護ステーション、地域包括支援センター、看取り、各種事業所等と連携しながら訪問看護を行っている。

1) 平成24年度から令和4年度までの年間訪問看護件数

年度	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4
件数	2,969	2,592	2,235	2,237	2,352	2,473	2,440	2,683	2,664	3,001	3,734

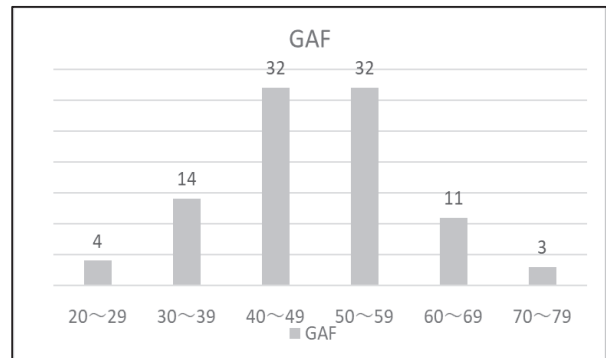
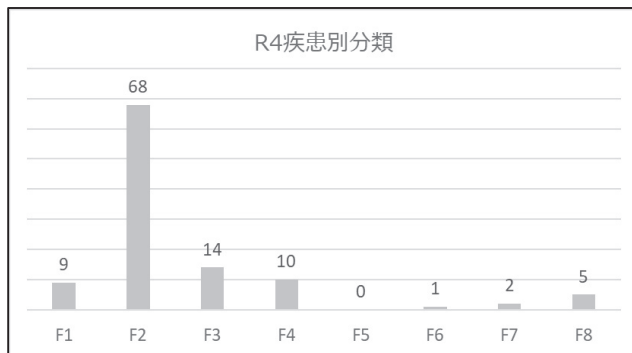
2) 令和4年度 診療報酬別訪問看護件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問件数		264	284	324	287	324	292	322	323	300	304	327	3,839	3,734
内訳	訪問Ⅰ	253	270	318	286	318	287	314	312	276	273	269	311	3,487
	訪問Ⅲ	11	14	6	1	6	5	8	11	24	31	58	72	247
複数名訪問		79	44	59	71	11	12	10	8	66	52	44	66	522

3) 年齢別区分 (令和5年3月現在)

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	合計
13	10	8	19	25	19	8	102

4) 疾患別分類とGAF



イ 地域医療連携業務

患者・家族が安心して精神科医療を受けられ、また、安心して生活が送れるために地域医療・行政・福祉・病院の連携が重要である。当センターと地域をつなぐ“架け橋”の役割を担うため、2016年4月地域医療連携室として開室。準備期間を経て同年9月業務を開始した。主な業務は以下のとおりである。

(ア) ベッドコントロール

- ・安心安全な療養環境の調整や、病床稼働率の向上と即日入院の受け入れを目的に、ベッドコントロールを行っている。

(イ) 他の医療機関からの転院調整

- ・診療科を問わず他の医療機関からのm-ECT（修正型通電療法）、クロザピン治療、r-TMS（反復経頭蓋磁気刺激）の転院調整。
- ・診療所協会へ空床状況を入力する。

(ウ) 見学・研修の調整

- ・地域、関係機関からの見学、研修の受入調整や企画等。

(エ) MRI / CT 依頼検査

- ・地域の医療機関からの、MRI / CT の依頼検査を調整。

(オ) 講師派遣、協議会

- ・地域に向けた講師派遣を調整。
- ・各種協議会への参画。

A 他の医療機関からの転院調整

	m-ECT	クロザピン	一般	全体
問合せ件数	6	7	6	19
受入件数	3	2	3	8

B 見学・研修調整

日 程	機 関 名	参加人数
6月7日	明治学院大学心理学部心理学科（オンライン）	38名
7月26日	神奈川県立精神保健福祉センター	10名
8月3日	長野県立こころの医療センター駒ヶ根	7名
12月13日	横浜市総合保健医療財団横浜市総合保健医療センター	5名
		合計 約60名

C MRI・CT 依頼検査調整

問 合 せ	2件
実 施	2件

D 講演派遣

内 容	主 催	日時
統合失調症について	横浜市港南区自立支援協議会	5月25日
神奈川県立精神医療センターと依存症について	芹が谷ケアプラザ	6月11日
パーソナリティ障害	横浜市南区生活支援センター	6月27日
うつ病について	横浜市港南区自立支援協議会	7月27日
パーソナリティ障害について	横浜市港南区自立支援協議会	9月28日
地域における緊急時対応	恵友会（横浜市南区）	10月21日
精神医療と介護の連携	平戸地域ケアプラザ	10月26日
精神疾患の理解と対応	横浜市港南区保健推進協議会及び港南区協働による地域推進協議会	11月17日
依存症について	横浜市港南区自立支援協議会	11月30日
発達障害について	横浜市港南区自立支援協議会	1月25日
高齢者の精神疾患について	横浜市港南区自立支援協議会	3月22日

E 協議会等

内 容	主催、場所等	参 加 日
横浜市港南区精神部会	横浜市港南区自立支援協議会	8月18日、10月13日、 12月8日、2月9日
横浜市港南区地域生活支援会議	港南区	4月21日
横浜市南区地域包括ケア連絡会	横浜市南区自立支援協議会	5月24日、7月26日、 9月27日、11月22日、 1月24日、3月28日
横浜市南区精神部会	横浜市南区自立支援協議会	6月13日、8月22日、 10月24日、12月19日、 2月27日
横浜市依存症関連会議	横浜市	7月15日、10月25日
港南区行政連絡会	港南区	12月15日
横浜市栄区行政連絡会議	栄区	12月21日
依存症治療拠点機関等連携会議	Web開催	9月21日
湘南鎌倉総合病院（イノベーションセンター）		7月12日、9月13日、 9月20日
ビッグレスキュー神奈川	葉山町	7月6日、8月24日、 10月16日

連携サポートセンターは令和3年に新設された部署で、地域連携・訪問支援科と福祉医療相談科から構成されている。地域と病院の連携体制構築に向けて以下の役割を担っている。

①患者相談

入院時から地域生活を見据え、患者さんやご家族が安心して治療を受けられるようタイムリーに専門職の相談を受けられるよう調整する。

②入退院支援

- ・病院の受入調整窓口を一元化することにより、受診相談から、入院、退院、地域での定着までを総合的に支援する。
- ・入院中からその人らしさを大切に、本人のペースでアウトリーチ（訪問）を行う。特に、長期入院患者さんの退院促進に向けて訪問看護の充実を図る。

・患者さんの病状や病棟役割等に応じて適切なベッドコントロールを行う。

③地域連携

- ・関係機関向けの「病院見学会」「医療機関訪問」等、市民、医療・介護・福祉職、行政関係者が学べる場を設ける。
- ・地域に出向き、顔の見える関係づくりを行いながら、地域の困りごとを一緒に検討する。
- ・単科精神科病院、クリニック等で対応の難しいケースの受入を行う。

④コロナ支援

- ・精神科コロナ重点医療機関として、一般病院で対応困難な精神疾患をお持ちのコロナ患者さんを受け入れる。
- ・公立病院として県内の精神科病院、関係機関への技術支援を行う。

⑤その他

- ・長期入院患者退院支援：1年以上の入院患者を対象に、退院支援に関する進捗管理や、個別ケースに関する調整、他機関連携、家族面接等を行う。
- ・依存症治療拠点機関：事業に関する運営、他機関連携と課題の共有、依存症に関するデータ収集と報告、神奈川依存症ポータルサイトの対応等を行う。

(7) 薬剤業務

調剤業務は、年間処方せん枚数は入院58,941枚、外来44,863枚（うち院外処方せん43,056枚、院内処方せん1,807枚、院外処方せん発行率96.0%）で、1日平均枚数は入院161.5枚、外来185.4枚（うち院外処方せん177.9枚、院内処方せん7.5枚）であった。

薬剤情報提供業務（外来・院内処方）は、服薬アドヒアランス向上等を目的として対象患者さん全員に行っている。薬剤情報提供料の算定は972件であった。

薬剤管理指導業務（入院）は、指導実患者数487人（前年度422人）で、指導回数2,030回（前年度1,854回）であった。また、クロザピンを服用している患者さんについては原則全員行っている。

製剤業務は、製剤品目は5品目で、その全てが散剤の予製で調剤業務の効率化に役立っている。今年度も前年度に引き続きクエチアピン細粒が手に入らないため、錠剤を粉碎し200mg/gの予製を行った。

「医療安全報告書」は電子カルテ上のソフト「ファントルくん」に入力しており、薬剤科の報告件数は39件（レベル0：28件、レベル1：11件、レベル2以上：0件）であった。

薬品管理業務は、購入薬品数は774品目であった。購入額は195,386,633円で、前年度より22,600,000円程多かった。前年度より1,000,000円以上購入額が増えた薬品は、エビリファイ持続性水懸筋注用2,100,000円、ゼプリオン水懸筋注8,500,000円、ゼプリオンTRI水懸筋注1,100,000円、クロザリル錠3,500,000円、ジスパルカプセル（新薬）1,400,000円、デエビゴ錠2,600,000円であった。薬効別購入割合は中枢神経系用薬が86.8%、循環器官用薬と消化器官用薬及びその他の薬剤が13.2%であった。また、ここ2年間は相次ぐ販売中止、出荷停止、限定出荷等への対応に大変苦労している。

調剤室の全薬品の在庫量の確認を半期毎に実施した。病棟・外来の常備・救急薬品の管理については、薬剤師による点検を毎月実施した。

薬事会議は4回開催した。新規採用医薬品8品目、緊急購入医薬品153品目、削除医薬品40品目、後発品への切り替えは11品目であった。例年より削除品目が多いのは、不動薬品をピックアップし整理したためである。後発医薬品の使用割合（数量ベース）は令和4年3月末時点で81.7%だったが、令和5年3月末時点で85.5%に上がった。

医薬品情報管理業務は、「医薬品情報」（DIニュース）を12回発行した。

入院の各種教育プログラムにおいて、25回集団指導を行った。

A 令和4年度調剤数

※) 外来は外来稼働日数242日で、入院は365日で算出

区 分	処方せん枚数 (枚)	剤 数 (件)	延べ剤数 (剤)	1 日 平 均*	
				剤 数 (件)	延べ剤数 (剤)
入 院	58,941	179,979	1,016,503	493.1	2,784.9
外 来	1,807	11,916	177,407	49.2	733.1
計	60,748	191,895	1,193,910		

B 令和4年度注射剤払い出し数

注射せん枚数 (枚)	500mL 未満 (本)	500mL 以上 (本)	計 (本)
10,641	13,441	4,316	17,757

C 令和4年度製剤数

内服散剤 (g)	外 用 液 剤 (mL)		軟 膏 剤 (g)	錠剤の粉碎 (錠)
	非 滅 菌 製 剤	滅 菌 製 剤		
3,805	0	0	0	4,600

D 令和4年度薬品購入 (剤型別)

剤 型	品 目		購 入 額	
	数	割 合 (%)	金 額 (円)	割 合 (%)
内 用	609	78.7	95,606,055	48.9
注 射	85	11.0	98,036,913	50.2
外 用	75	9.7	1,729,509	0.9
消 毒 液	5	0.6	14,156	0.0
計	774	100.0	195,386,633	100.0

E 令和4年度薬品購入 (薬効別)

薬 効	品 目		購 入 額		
	数	割 合 (%)	金 額 (円)	割 合 (%)	
中枢神経系用薬	精神神経用剤	190	24.5	152,426,282	78.1
	抗てんかん剤	38	4.9	3,551,986	1.8
	抗パーキンソン剤	14	1.8	463,350	0.2
	催眠鎮静剤・抗不安剤	55	7.1	2,079,033	1.1
	中枢神経系用薬(その他)	44	5.7	10,960,977	5.6
循環器官用薬	64	8.3	1,604,180	0.8	
消化器官用薬	63	8.1	7,622,183	3.9	
その他の薬剤	306	39.5	16,678,642	8.5	
計	774	100.0	195,386,633	100.0	

(8) 医療教育

ア 臨床研修医受入状況

管理型病院名	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
足柄上病院					1	1	1			1		1	1
厚木市立病院								1	1	1			
国際親善総合病院					1	1	1	1					
横浜労災病院					1	1	1						
横浜医療センター			1								1		1

令和4年度は、臨床研修協力型病院として上記のとおり臨床研修医を受け入れた。(単位：人)

イ 研修受入

対 象	人 数	実 施 日
横浜市立大学医学部学生	84人	火曜日（見学実習） 概ね3週に1回

(9) 栄養管理業務

栄養管理科では、安全、安心な食事提供を日常の業務目標としている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症に対する科員の健康管理、給食対応などが落ち着いて実施できるようになってきた。当科においても科員や科員家族の感染者や濃厚接触者の発生がでてきたが、職場内における集団発生はなく、随時、調理従事者の勤務交替により業務に支障をきたすことはなかった。

当科では、給食内容について入院治療の療養環境の一つとして美味しく、こころの癒やしとなる食事作りを目指している。精神科特有の閉鎖病棟や隔離患者さんの楽しみとなるような献立内容の見直しや行事食の充実を図ってきた。感染対策により外出制限や面会制限となった入院患者さんのストレス緩和のためのセレクトメニューや特別デザートにメッセージカードを添えて提供した。嗜好調査や皆さんの声では、食事に対する高い満足度の結果が得られた。リクエストに応えるためのリクエストメニューも実施した。

一方、栄養管理は、全ての入院患者さんの身体合併症の発症や重症化予防のために、患者さんの個別性を踏まえた栄養管理計画を作成し、適正かつ有効な栄養管理を目指している。なお、患者さんの地域移行、退院促進に向けた健康管理、食生活の自立に結びつく患者教育・支援を栄養相談業務として実施している。

NST・栄養管理検討部会においては、定例会の会議開催、病棟訪問、嚥下ラウンドを実施した。低栄養改善、生活習慣病予防のほか誤嚥・窒息予防などを中心に取り組んだ。病棟カンファレンスにおいて栄養管理上の問題点、課題などの解決に向けて病棟スタッフと協議し連携しながらより良い栄養管理を模索してきた。実施件数は項目「イ」に表記する。

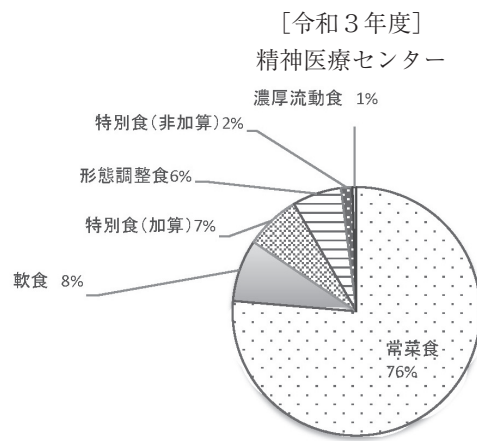
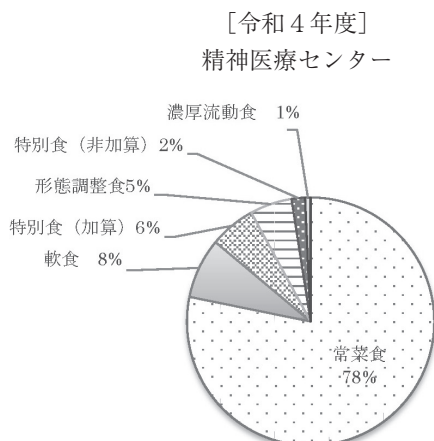
給食管理における異物混入、誤配膳などのリスクマネジメントとして科員の連携、協力を強化するために定例の科内会議のほか、科内ミーティングの充実を図った。

患者食糧費の適正活用については、前年度から継続して取り組みを実施した。令和4年度は患者数の増減が大きかったが、入退院の患者数の変動に合わせた発注変更や在庫管理などの食材管理を栄養士、調理師が一丸となって実施した。こうした取り組みにより食事の質を落とさずに経営改善に努めることができた。

ア 給食実施状況

令和4年度は、ペースト食の食種活用が3.3倍に増加している。嚥下ラウンドの定着および各病棟において嚥下状況に対応した食種選択ができてきていると推察する。また、嚥下障害を有するケア度の高い入院患者さんが増えた結果であると考えられる。膵臓食、エネルギーコントロール食が増加していることが令和4年度の特徴であった。管理栄養士による病棟内の栄養管理、カンファレンスによる患者さん個々人の栄養管理の検討をした結果、適切な食種が活用されるようになってきている。加えて、アルコール性の疾患、肥満によるメタボリックシンドロームの患者さんが増えたことが考えられる。食種の割合に大きな変化はみられていない。

区 分		年 度	令和4年度	令和3年度	対前年度比 (%)
一 般 食	常 菜 食		220,812	204,831	107.8
	軟 食	軟 菜 食	15,305	15,932	96.1
		分 粥 食	6,888	5,764	119.5
		小 計	22,193	21,696	102.3
	形 態 調 整 食	流 動 食	29	14	207.1
		ソ フ ト 食	5,732	5,544	103.4
		き ざ み と ろ み 食	8,651	11,252	76.9
		ミ キ サ ー 食	0	0	-
		ペ ー ス ト 食	1,101	336	327.7
	小 計	15,513	17,146	90.5	
	計		258,518	243,673	106.1
特 別 食	加 算	腎 炎 食	511	935	54.7
		心 臓 病 食	1,055	1,134	93.0
		肝 臓 病 食	540	948	57.0
		糖 尿 病 食	9,289	10,895	85.3
		膵 臓 病 食	488	25	1,952.0
		脂 質 代 謝 異 常 症 食	3,998	4,611	86.7
		肥 満 食	953	701	135.9
		痛 風 食	0	36	-
		潰 瘍 食	52	0	-
		ク ロ ー ン 病 食	35	0	-
	小 計	16,921	19,285	87.7	
	非 加 算	エ ネ ル ギ ー コ ン ト ロ ー ル 食	2,013	1,124	179.1
		塩 分 コ ン ト ロ ー ル 食	912	885	103.1
		塩 分 エ ネ ル ギ ー コ ン ト ロ ー ル 食	131	0	-
		検 査 食	748	687	108.9
		コ メ ン ト 指 示 食	1,137	1,297	87.7
		小 計	4,941	3,993	123.7
計		21,862	23,278	93.9	
濃 厚 流 動 食		2,039	1,380	147.8	
合 計		282,419	268,331	105.3	
デ イ ・ ケ ア 食		2,103	2,644	79.5	
検 食 ・ 保 存 食		2,190	2,190	100.0	
総 合 計		286,712	273,165	105.0	



イ 栄養管理・NST活動

患者さんの入退院の変動に応じて、スクリーニング件数は横ばいであった。病棟カンファレンスの内容がより深い栄養管理の検討の場になってきており、重点的な患者さんに絞って抽出をしているため、カンファレンス症例件数が増加した。このことは、多職種によるチーム医療が確立されてきており、院内スタッフが食事摂取量や体重変化、飲み込みの状況に着目したり、職種間において情報共有をする場面が増えた結果であると考えられる。特に新型コロナウイルス感染症対策、褥瘡発生予防の一環として低栄養状態と嚥下障害の患者対応のニーズが増えた。食事や栄養状態に関連した問題がある入院患者さんに対する食種変更や補助食品の活用が効果的に実施された。NST・栄養管理検討部会においては、NST通信の年3回の発行、勉強会の年3回実施など院内全体に向けた啓蒙活動を実施した。

区分	年度	令和4年度	令和3年度	対前年度比(%)
スクリーニング件数(新規入院患者)		1,385	1,336	103.7
カンファレンス症例件数		729	616	118.3

ウ 栄養食事指導

令和4年度の個人の全体での栄養食事指導件数は、令和3年度の前年度対比175.5%に続いて112.9%とさらに件数が増加した。特に外来患者さんにおいては、感染症対策の制限解除に伴い個人の栄養食事指導件数は122.6%の増加がみられた。入院患者さんについては、前年度対比91.5%であったが病棟訪問などの個人対応は増加していた。入院・外来患者さんともに抵抗力をつけるための食事が大切であるという意識は前年度と同様に垣間見られた。

集団栄養食事指導は、ストレス外来治療プログラム「リワーク」の集団栄養食事指導のほか、依存症病棟におけるせりがや講座、作業療法プログラムの食生活の自立支援のための集団栄養食事指導、医療観察法病棟における健康講座、デイケア通院患者対象のパワーアップセミナーなどの集団栄養食事指導を実施した。

区分 年度	入院			外来			合計		
	個人指導	集団指導		個人指導	集団指導		個人指導	集団指導	
	件数	件数	延人数	件数	件数	延人数	件数	件数	延人数
令和4年度	108	22	193	320	0	0	428	22	193
令和3年度	118	21	156	261	1	4	379	22	160
対前年度比(%)	91.5	104.8	123.7	122.6	-	-	112.9	100.0	120.6

エ その他

実習生の受け入れ指導

神奈川県立保健福祉大学より管理栄養士実習受託、3週間6名の実習を実施した。

文教大学より管理栄養士実習受託、3週間2名の実習を実施した。

関東学院大学より管理栄養士実習受託、3週間4名の実習を実施した。

実践女子大学より管理栄養士実習受託、2週間2名の実習を実施した。

実践女子大学より管理栄養士給食実習受託、1週間6名の実習を実施した。

(10) 医療安全推進業務

1、令和4年（2022年）度活動目標

【医療安全対策】

- (1) 医療安全マニュアルを遵守し、重大事故ゼロを目指す。
- (2) 患者に安全で安楽な医療を提供するとともに、安心して働ける環境を作る。

【院内感染対策】

- (1) 標準予防策を遵守し、感染症の拡大防止をはかる。
- (2) 整理整頓を推進し清潔な環境を提供する。

2、院内研修

研修は資料閲覧を中心に実施した。

- ・令和4年度研修実施一覧（表1）

3、医療安全対策

(1) 転倒・転落対策

環境整備とともにフレイル対策を取り入れ、転倒防止対策を実践した。

(2) 患者誤認防止対策

外来患者や電話での問い合わせに対し、患者確認はフルネームで名乗ってもらうこと生年月日を確認することを徹底した。また、外来診察時には入室時に名前を名乗ってもらうことを改めて表示し患者に協力をえながら患者間違え防止を図る。

(3) とんぶく薬管理の改善（とんぶくワーキング）

向精神薬の管理・頓服指示の見直しを行い、指示出しマニュアルを作成した。

- ・月別報告件数（表2）
- ・報告分類レベル内訳（表3）
- ・報告者職種内訳（表4）

4、感染対策

新型コロナウイルス感染症の流行下でも、患者の治療・療養環境を維持する事を念頭に、必要な感染対策を検討し実践した。職員・面会者による持ち込み拡大なく、クラスター発生なく経過できた。職員と利用者が感染対策を実践し、協力・連携した。

- ・感染症発生等 集計（表5）

(表1) 研修実施一覧

令和4年度研修実施一覧

項目	対象	日時	テーマ
感染	採用職員	4月4日	院内感染防止対策
安全	採用職員	4月4日	精神科における医療安全
医療機器	採用職員	4月4日	AEDの取り扱い
感染	採用看護職員	4月8日	精神科で実践する感染対策
感染・安全	新任看護科長	4月12日	当センターの感染対策・安全対策
感染・安全	復職職員	5月6日 7月1日	当センターの感染対策・安全対策
感染・安全	全職員	6月15日～8月5日	令和4年度第1回 医療安全・感染対策研修 (医療安全研修)安全文化は報告から (感染対策研修)5Sと手指衛生でアウトブレイクゼロへ
感染対策	F棟 入院患者	7月22日	当センターの新型コロナウイルス感染症対策と最新情報
安全対策	静脈注射受講者	7月19日	安全対策-鋭利機材の取り扱い-
安全	OT/デイケア職員	9月20日	BLS研修 効果的な胸骨圧迫の方法を体験する
感染・安全	採用時研修	8月5日 10月3日、11日、 11月1日	当センターの感染対策・安全対策
感染・安全	全職種	2023年 1月16日 ～2月17日	令和4年度 第2回 医療安全・感染対策研修 《医療安全フォーラム》 安全対策:2022事例分析を通して取り組んだこと 感染対策:環境整備と手指衛生への取り組み
感染・安全	委託業者	2月9日	飛沫感染対策ここを抑えれば大丈夫!
安全	栄養科 研修生	2月16日 3月20日	精神科専門病院で行う医療安全対策 -栄養管理科との協働-

(表2) 月別報告件数 (令和4年4月～令和5年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
レベル0	30	50	44	41	27	32	37	38	30	35	26	48	438	449
レベル1	83	95	96	84	92	82	102	88	82	67	67	91	1029	947
レベル2	19	21	31	26	22	21	24	26	18	15	10	31	264	190
レベル3a	1	6	5	3	2	1	1	7	5	1	0	1	33	37
レベル3b	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	6
レベル4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
レベル5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	133	172	176	154	143	137	164	159	135	118	105	171	1767	1631
前年度	147	148	137	124	160	153	113	113	157	131	122	126	1631	
レベル 0・1割合	85.0%	84.3%	79.5%	81.2%	83.2%	83.2%	84.8%	79.2%	83.0%	86.4%	88.6%	81.3%	83.0%	

(表3) 分類レベル別内訳 (令和4年度)

	薬剤関連							その他											合計
	内服薬	注射薬	外用薬	指示・情報伝達	転倒・転落	検査	チューブ管理・	治療処置	誤嚥・窒息	配膳・異物混入	盗食・異食	自殺企図・自傷	暴行(对患者・対物)	暴行(対職員)	離院・無断外出	持ち込み	受傷	その他	
レベル0	138	10	3	24	2	25	0	3	0	6	4	4	4	11	3	14	1	186	438
レベル1	308	17	8	9	185	19	18	10	3	35	34	137	22	31	23	17	12	141	1029
レベル2	22	14	1	0	46	7	33	5	4	2	7	51	23	14	9	3	7	16	264
レベル3a	1	0	0	0	8	0	1	0	2	1	5	12	0	0	0	0	1	2	33
レベル3b	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
レベル4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レベル5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	469	41	12	33	242	51	52	18	9	44	50	205	49	56	36	34	21	345	1767
前年度	393	47	11	29	191	44	24	19	2	34	93	234	30	59	32	31	21	337	1631

(表4) 報告者職種内訳・複数報告 (令和2年度～令和4年度)

	令和2年 (2020年)度	令和3年 (2021年)度	令和4年 (2022年)度	構成比
医師	39	42	87	4.8%
看護師	1226	1548	1622	88.9%
薬剤師	24	30	37	2.0%
臨床検査技師	1	11	10	0.5%
放射線技師	0	0	0	0.0%
作業療法士	13	11	17	0.9%
栄養士	24	12	25	1.4%
事務職	3	3	5	0.3%
その他	10	13	22	1.2%
合計	1340	1670	1825	100.0%

(表5) 感染症(疑い)・報告集計

	感染症・主訴						発症者			報告部署											合計				
	感染症	発熱・疑い	呼吸器系	消化器系	泌尿器系	その他	患者	職員本人	職員の家族	その他	医療局	2A(身体ケア)	2B(依存症)	3A(地域移行支援)	3B(ストレスケア)	4A(高度ケア)	4B(思春期)	5A(救急)	5B(救急)	F(医療観察法)		外来	*1F	*2F	委託
2022年度 総数	171	50	21	1	10	32	148	109	26	2	15	75	33	18	7	18	7	30	16	26	7	26	6	1	285
前年度総数	82	40	26	0	3	44	129	27	26	13	2	79	10	8	1	9	10	18	15	7	8	21	3	4	195

*1F: 地域連携科・栄養管理科・薬剤科・放射線科・検査科・心理科・作業科・デイケア科・訪問看護科・相談科・医事課

*2F: 看護局・教育科・経営企画課・総務課

感染症内訳: 新型コロナウイルス感染症170件: 患者67件(院内伝搬6件)、職員102件(院内伝搬3件)
 呼吸器系感染症(肺炎・誤嚥性肺炎)20件、尿路感染10件、インフルエンザウイルス感染症1件であった。

(11) 保育業務

令和4年度は、精神医療センター及びこども医療センターに勤務する職員の幼児を対象とするとともに、保育時間も6時30分から22時までとしている。また、毎週土曜日と週2日（火・木）の夜間保育、月1回日曜保育（第3を基本）も実施している。

ア 保育の状況 令和4年度（令和5年3月1日時点）

年齢	男	女	計	保 護 者 の 所 属		
6 歳	1	3	4	精神医療センター 2	こども医療センター 2	地域 0
5 歳	3	0	3	精神医療センター 0	こども医療センター 3	地域 0
4 歳	5	2	7	精神医療センター 3	こども医療センター 4	地域 0
3 歳	3	3	6	精神医療センター 1	こども医療センター 5	地域 0
2 歳	5	3	8	精神医療センター 2	こども医療センター 4	地域 2
1 歳	2	1	3	精神医療センター 1	こども医療センター 2	地域 0
計	19	12	31	精神医療センター 9	こども医療センター 20	地域 2

イ 主な行事

月	内 容	
4	進級式、クラス懇談会	誕生会
5	芋苗植え、こどもの日製作、母の日製作、保育参観	〃
6	前期健康診断、父の日製作、歯みがき指導	〃
7	プール開き（プールは～8/31まで実施）、終園式、七夕製作	〃
9	始園式、秋祭り、お月見製作	〃
10	運動会	〃
11	芋掘り	〃
12	お楽しみ会、終園式、なかよし発表会、後期健康診断	〃
1	始園式、個人面談	〃
2	節分、おひなさま製作	〃
3	卒園式、終園式	〃

令和4年度 **業 務 年 報**

令和7年7月発行

神奈川県立精神医療センター

横浜市港南区芹が谷2-5-1

TEL 045-822-0241

印刷所 文明堂印刷株式会社 横浜営業所

横浜市南区共進町3-54-1 佐藤ビル 1F-B

TEL 045-731-1441



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立精神医療センター

横浜市港南区芹が谷2-5-1 〒233-0006 電話(045)822-0241(代表) FAX(045)822-0242